滋賀県立障害者福祉センター

平成29年度

年報

設置主体　滋賀県

指定管理者（公財）滋賀県身体障害者福祉協会

は　じ　め　に

滋賀県立障害者福祉センターは、平成２年に「心身障害者に関する各種の相談に応じるとともに、教養の向上、健康の増進、社会との交流促進等のための便宜を総合的に供与し、心身障害者の福祉の増進を図る」ことを目的として設置され、当協会が指定管理者として管理代行を行っているところです。

平成29年度は、第三期指定管理期間（平成28年度～平成32年度）の２年目の年にあたり、「利用者一人ひとりに寄り添い、ともに成長するセンター」を目指し、経営方針と経営目標の下、安全安心を基本に、質の高いサービスの提供に努めてまいりました。

事業の推進に当たっては、ボランティアの皆様をはじめ、関係団体や関係機関の方々の温かい御支援と御協力を賜りました。心から深く感謝申し上げます。各種事業の取り組みにより、昨年度の年間利用者数は開設以来最も多い延べ８万６千人余となり、多くの方々に御利用をいただくことができました。

また、開設以来27年を経過し、老朽化した施設設備の改修工事に県で取り組みいただき、空調設備やプール還水槽の改修が行われ、期間中プールの営業を休止するなど、利用者の皆様には大変御迷惑をおかけしました。

平成30年度においても、経営方針の下、指定管理期間に対応して定めた中期経営計画に基づき、一層多くの障害者の利益の増進に寄与できるよう、効果的で効率的な経営に職員一丸となって取り組んでまいります。

今後とも、関係者の皆様の変わらぬ御指導と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

本書は、平成29年度の事業概要を年報としてまとめたものです。

御高覧いただき、御教示いただければ幸いに存じます。

平成30年7月

指定管理者　　（公財）滋賀県身体障害者福祉協会
滋賀県立障害者福祉センター所長

目　　次

Ⅰ　事業の概要 …… 1

１．行事・交流・大会事業 …… 1

２．スポーツ・文化教室 …… 5

３．更生相談事業 …… 30

４．養成・研修事業 …… 33

５．広報・啓発事業 …… 35

６．自主事業 …… 36

７．運営会議等 …… 37

８．研修状況等 …… 39

Ⅱ　クラブ活動 …… 40

Ⅲ　利用状況 …… 41

Ⅳ　利用者と支える人の声 …… 47

Ⅴ　施設の概要 …… 49

Ⅵ　組　　織 …… 54

Ⅰ　事業の概要

当センターは、障害のある人を対象とした夏まつり等の行事、スポーツ教室、文化教室、スポーツ医療相談等の事業をライフステージ等に応じて実施するとともに、センター事業を支援していただくボランティア養成事業を実施し、障害のある人の社会参加を進める取り組みの一環としての場を提供した。

１．行事・交流・大会事業

第27回夏まつり

（１）期　　日　　平成29年7月23日（日）

（２）参加人数等　　1,626人

（３）目　　的

障がいのある人もない人も、夏まつりにつどい、障がいの理解と認識を深め、「共に生きることの大切さを実感できる社会づくり」の一助とする。

（４）内　　容

和太鼓演奏、大道芸、吹奏楽演奏（マーチング）、福祉車輌・環境対応車合同展示、近隣施設作品展示、ミニ列車、縁日、クイックマッサージ、フリーマーケット、模擬店、スタンプラリー、大抽選会、軽スポーツ体験コーナー、組紐体験、エコ風船飛ばし

（５）後　　援

滋賀県、ＢＢＣびわ湖放送、ＫＢＳ京都、ＮＨＫ大津放送局、株式会社エフエム滋賀、京都新聞、朝日新聞大津総局、産經新聞社、中日新聞社、毎日新聞大津支局、読売新聞大津支局、滋賀報知新聞社、株式会社ZTV滋賀放送局、東近江スマイルネット、株式会社あいコムこうか

（６）協　　力

株式会社トヨタレンタリース滋賀、滋賀日産自動車株式会社、滋賀ダイハツ販売株式会社、ネッツトヨタ滋賀株式会社、滋賀トヨタ自動車株式会社、トヨタカローラ滋賀株式会社、登録ボランティア

（７）総　　評

今年も、延べ1,626人の参加があり、当センターの夏まつりならではの雰囲気の中、多種多様な催しを通して、障がいのある、ないに関わらず子どもから大人まで多くの方に楽しい時間を過ごしていただいた。参加者からは催しの内容を通してテーマである「－共に生きる－出会いできらめくみんなの笑顔」が実感できたという声を多く聞くことができた。メイン会場のステージでは、吹奏楽演奏・大道芸・和太鼓演奏といった様々なジャンルのワークショップを通して、笑顔で身体を動かす姿が見られた。また、会場内の各コーナーを巡るスタンプラリーにも家族や友人と共に多くの方が参加された。フィナーレでは、参加者のメッセージと思いが込められた色とりどりの400個のエコ風船を大空に飛ばして賑やかに夏まつりを締めくくった。エコ風船は三重県から拾得の連絡があり、「メッセージを周りの人に伝えたい」、「風船に入っているコスモスの種をまきたい」といった感想が寄せられ、飛んでいった先にも共感の輪を広げることができた。

障害者週間啓発イベント（体験）

（1）期　　日　平成29年11月26日（日）

（2）参加人数等　176人

（3）目　　的

障害者福祉についての関心と理解を深めるため、障害者スポーツを通して障害のある人ない人の交流を深めるとともに障害のある人があらゆる分野の活動に積極的に参加する意欲を高める機会とする。

（4）内　　容

午前の部“体を動かそう！　やった・できた・またやりたい！”

午後の部“ボッチャ！パラリンピック正式種目　見て・触って・やってみよう！”

共　　通“びわこ学園医療福祉センター草津

－車椅子に乗る障害の重い子どもも大人も遊べる体験ブース－

跳んで・弾んで・遊びを通じてワクワク体験！”

（5）総　　評

午前中はセラバンドや柔軟性を高める運動などを行い、午後は『ボッチャ』のデモンストレーションや競技ボッチャ・レクリエーションボッチャを体験していただいた。また、車椅子に乗る障害の重い子どもも大人も遊べるブースでは、身体に重い障害のある方々が多く参加され、一日を通して跳んだり走ったり、普段できない体験をしていただいた。

障害者週間啓発イベント（清掃・防災）

（1）期　　日　平成 29年 11月 30日（木）

（2）参加人数等　140人

（3）目　　的

清掃活動や防災訓練を通して障害者福祉についての関心と理解を深めるきっかけとし、広く社会にアピールするとともに、障害のある人自らもあらゆる分野の活動に積極的に参加する意欲を高める機会とする。

（4）内　　容

清掃活動：福祉ゾーン一帯の清掃

防災訓練：消防署員による防災講話、水消火器による消火訓練、スモークマシンによる煙中体験（避難訓練）、起震車による地震体験

（5）総　　評

近隣施設や当センターの利用者に広く参加を呼びかけ、福祉ゾーン一帯の清掃活動と防災訓練を行った。清掃活動では、障害の有無に関わらず参加者全員で歩道の落ち葉やゴミの清掃を行った。参加者からは「清掃をしてすっきりした」等の感想をいただいた。その後、湖南広域消防局南消防署員の指導のもと、防災訓練に取り組んだ。防災講話や起震車、煙中体験等を行い、災害時の身の守り方や消火器の取り扱い方法を学び、日頃の防災に対する意識の向上に繋げることができた。

映画鑑賞会

（1）期　　日
　① 平成 29年　8月　5日（土）
　② 平成 29年 12月 23日（土・祝）

（2）参加人数
　① 187人　② 104人

（3）目　　的
　夏休み・冬休み中の利用者サービスの向上を図るとともに、障害のある人・ない人の交流を深め、障害者福祉の理解・啓発を図る。

（4）内　　容
　①「君の名は。」・「ファインディング・ドリー」
　②「ズートピア」・「映画ドラえもんのび太の南極カチコチ大冒険」

（5）総　　評
　会場に椅子席とマット席を準備することで、席を自由に選び、くつろぎながら鑑賞していただいた。参加者からは「スクリーンが大きくて迫力があった」、「鑑賞中に出入りが自由にできて良かった」などの満足した声をいただいた。
　また、映画館ではなかなか鑑賞の機会を持ちにくい方にもそれぞれのスタイルで安心して参加していただけた。
　今年度は特に人気の映画を上映したこともあり、過去７年間で最多の参加人数となった。

第 34 回水泳記録会

（1）期　　日　平成 30年 3月 18日（日）

（2）参加人数等　226人

（3）目　　的
　障害のある人とない人が、水泳の自己記録の向上を目指し、水に親しみ、障害区分を超えて楽しく交流を深めるとともに、健康の増進および社会参加の促進を図る。

（4）内　　容
　① 第１部: 25mに挑戦、水中レクリエーション
　② 第２部: 自由形・平泳ぎ・背泳ぎ・バタフライ各 25m、50m、100mフリーリレー

（5）総　　評
　第1部では、25m完泳を目指して頑張って泳ぐ姿に自然と大きな声援や拍手が沸き起こり、会場が一体となった。水中レクリエーションでは、プール内に様々な仕掛けを設置し、水中アスレチックとして楽しんでいただいた事で多くの笑顔が見られた。
　第2部では、昨年より定員を20人増やし、100人の方の参加があった。また、しがスポーツ大使であり、リオデジャネイロパラリンピックメダリストの木村敬一選手を招待して、参加者へのメッセージと世界レベルの泳ぎを披露していただいた。参加者は、木村選手から刺激を受けて自己記録に挑戦し、記録が更新されると大きな歓声があがった。障害のある人もない人も一体となって、会場は大いに盛り上がり、当センターならではの水泳記録会が開催できた。

グラウンドゴルフ大会

（1）期　　日　平成 29年 10月 21日（土）

（2）参加人数等　59人

（3）目　　的

障害のある人もない人も大会に参加し、交流する中で、実力を十分に発揮し、健康の増進および社会参加の促進を図る。

（4）内　　容

1グループ 6人で全 8ホールをまわる。

（5）総　　評

屋外での開催予定であったが、台風接近による悪天候のため、当センターアリーナでの開催となった。障害のある人もない人も共に日頃の成果を発揮する場として、また、交流の場として社会参加の促進が図れた。

成績上位者同士でのプレーオフは大いに盛り上がった。その後行ったレクリエーションは、和気あいあいとした雰囲気で、参加者同士の交流が多く見られた。

屋内での開催で、コースは短くなったが、障害物もなく、よく転がるホールに苦戦される姿もあり屋内ならではの面白さを味わっていただいた。

スポーツ吹矢大会

（1）期　　日　平成29年11月5日（日）

（2）参加人数等　51人

（3）目　　的

障害のある人もない人も大会に参加し、交流する中で、日頃の成果を発揮し、健康の増進および社会参加の促進を図る。

（4）内　　容

5m（障害の程度により5m以下も含む）、6m、8mの各部門に分かれて競技を3ラウンド行い、各部門上位3名および特別賞（基本動作賞・迫力賞・パーフェクト賞）を表彰する。

（5）総　　評

4年目を迎え、前年度に引き続き20歳代から80歳代までの幅広い年齢の方々が、日頃の練習の成果を発揮すること、また、健康の維持増進や交流することを目的に本大会に参加された。

参加者は、スポーツ吹矢の基本動作を一つひとつ確認しながら「スポーツ吹矢式呼吸法」を行い、的をめがけて力強く矢を吹かれていた。

今大会では各部門とも接戦となり活気に溢れた大会となった。特に6mの部では順位決定戦による優勝決定戦が、1回戦では決着がつかず、2回戦までもつれ込み、熾烈な戦いとなり、会場内は大いに盛り上がった。

2．スポーツ・文化教室

スポーツ・文化教室開催状況

教室名		対象者	期間	曜日	回数	時間帯	定員	延受講者数
スポーツ入門教室	初心者アーチェリー教室	身体障害者(15歳以上・視覚障害者を除く)	10/17～12/5	火	4	10:00～12:00	6人	7人
	グラウンドゴルフ定例会	身体障害者・精神障害者・障害のない人	4/14～3/9	金	10	13:30～15:30	自由参加	208人
	スポーツ吹矢定例会	身体障害者・精神障害者・障害のない人	4/28～3/23	金	11	13:30～15:30	自由参加	242人
	リズムでダンス教室	知的障害者(中学生以上)	1/20～3/24	土	6	15:00～16:00	20人	192人
	アクアビクス教室	障害のある人・障害のない人	4/22～3/24	土	10	10:45～11:45	自由参加	166人
	アクアエクササイズ教室	身体障害者・精神障害者・障害のない人(36歳以上)	4/8～2/10	土	6	12:00～12:50	10人程度	49人
	水中運動(知的)教室	知的障害者(36歳以上)	5/14～3/11	日	6	12:00～12:50	10人程度	74人
	はじめてスイム(身体)教室	身体障害者	9/1～12/15	金	6	12:00～12:50	5人	35人
	障害者スポーツ指導支援	障害者団体等	通年		54			1017人
ジュニア対象教室	親子水泳教室	知的障害のある小学生とその親	5/20～7/8	土	8	16:30～17:30	15組	265人
重度障害者対象教室	水中らくらくアドバイス	重度の肢体障害者とその介助者	通年				10組程度	4人
ステップアップ教室	卓球初級教室	障害のある人	4/20～3/15	木	11	10:00～11:30	4人程度	11人
	卓球ラリータイム	障害のある人・障害のない人	4/20～3/15	木	11	10:00～11:30	16人程度	120人
	水泳初級教室	障害のある人(中学生以上35歳まで)で集団指導に対応できる人	1/14～3/11	日	6	16:30～17:30	20人	162人
	水泳中級教室							
	水泳上級教室							
	水泳選手育成教室	①障害のある人(小学校6年生以上) ②競技会への出場を希望し、高い意欲で練習会に参加できる人	4/7～3/23	金	45	18:30～20:30	15人程度	1288人
	※バスケットボール選手育成教室	①草津養護学校区の知的・発達障害のある中学3年生以上の人 ②競技会への出場を希望し、高い意欲で練習会に参加できる人	4/19～3/28	水	24	15:00～16:30	20人程度	312人
	県障害者スポーツ大会に向けた練習会 アーチェリー	身体障害者手帳を有する12歳以上の人(視覚障害者を除く)	5月7日	日	1	10:00～12:00	10人	20人
	県障害者スポーツ大会に向けた練習会 フライングディスク	身体障害者・療育手帳を有する12歳以上の人	5月7日	日	1	13:30～15:30	20人	30人
個別サポート	水泳個別アドバイス	障害のある人	通年				一日最大3人(組)	260人
	健康・運動個別アドバイス	障害のある人(中学生以上)	通年				一日一人(組)	5人
測定・評価	体力測定・トレーニングアドバイス	身体障害者・精神障害者	10月25日	水	1	13:30～15:30	30人	34人
バックアップ	琵琶湖一周に挑戦	障害のある人・障害のない人	通年					201人
	日本縦断に挑戦	障害のある人・障害のない人	通年					57人
	指導員と泳ごう	25m以上泳げる障害のある人・障害のない人	通年	土・日	11	15:30～16:30 17:45～18:45		60人
	タイムトライアル	障害のある人・障害のない人	4/1～3/25	祝・土・日	12	16:15～17:45	20人程度	32人
介護予防	ヨガ教室	身体障害者・精神障害者・障害のない人"	4/25～3/27	火	11	10:00～11:30	20人	101人
	※セラバンドを使った筋力アップ教室	障害のある人・障害のない人	4/13～3/8	木	12	13:30～14:30	10人程度	143人
	ラジオ体操	障害のある人・障害のない人	通年	毎日		9:25～9:30		2677人
	介護予防セミナー	障害のある人・障害のない人	11月18日 12月2日	土	2	13:30～15:30	20人	41人
地域支援	地域体の使い方(幼児)教室(湖北・湖西)	知的・発達障害のある4・5歳児とその親(身体障害除く)	11/19～3/11	日	5	9:30～10:30	10組	46人
	地域体の使い方(ジュニア)教室(湖北・湖西)	知的・発達障害のある小学生(身体障害除く)	11/19～3/11	日	5	11:00～12:00	15人	107人
	短期水泳教室　湖北・湖東 ジュニア・初級・中級・上級教室	障害のある人(小学生)	11/18～3/17	土	5	9:15～10:15	15人	341人
	短期水泳教室　湖北・湖東 初級・中級・上級教室	障害のある人(中学生以上)				10:30～11:30	20人	
	短期水泳教室　湖西　親子初級・中級教室	知的障害者(小学生)とその親	11/11～3/3	土	5	13:30～15:00	6組	142人
	短期水泳教室　湖西　初級・中級教室	知的障害者(中学生以上)					12人	
	障害者スポーツ体験指導事業	障害のある団体等	通年					1569人
文化・教養	パソコン教室	身体障害者・精神障害者(小学校3年生以上)	4/8～4/22	土	3	13:30～15:30	8人	49人
	書道教室	障害のある人(中学生以上)	5/10～11/8	水	6	10:00～12:00	10人	52人
	茶道教室	障害のある人(中学生以上)	5/13～1/13	土	8	13:30～15:30	10人	133人
	※生け花教室	障害のある人	5/28～12/24	日	5	14:30～15:30	10人	86人
	絵画教室　スマイル☺	障害のある人(小学校3年生以上)とその介助者	5/14～3/11	日	6	13:00～15:00	10人	105人
	※絞り染め体験教室	障害のある人とその介助者	6月11日	日	1	14:00～15:30	15人	23人
	ケーキづくり教室	障害のある人(中学生以上)とその介助者	12月2日	土	1	14:00～16:30	18人	36人
	ガーデニング教室	障害のある人とその介助者	12月3日	日	1	13:30～15:30	18人	32人
	将棋と囲碁のつどい	障害のある人・障害のない人	4/23～3/25	日	10	10:00～16:30	15人程度	134人
	プロ棋士を迎えての対局指導(囲碁)	障害のある人・障害のない人	8月20日	日	1	12:45～16:00	12人	20人
地域支援	地域文化教室	障害のある人とその介助者	通年		7		各15人程度	127人

[注]　※は平成29年度新たに開催した教室

初心者アーチェリー教室

（1）目　　的

　アーチェリーを始めてみようとする初心者が、1人で安全に近射（10m）できるまでを習得する。

（2）内　　容

① 種目についての説明
② 弓具の扱い方
③ アクセサリー装着方法
④ 射法の基本（マナーから矢取りまで）
⑤ セラバンドトレーニング
⑥ 実射 [5m・10m・（18m）]
⑦ スコアカード記入方法

（3）総　　評 (受講者等延べ7人)

　アーチェリーの基本を押さえた上で近射から18mまでスムーズな上達が見られ、楽しく、安全にアーチェリーを続けるための契機となった。また、大会出場を目指し意欲的に取り組まれていた。

グラウンドゴルフ定例会

（1）目　　的

　障害のある人とない人が共に参加し、グラウンドゴルフを通して楽しく交流を深めるなかで、健康の維持・増進および積極的な社会参加の促進を図る。

（2）内　　容

① １巡目は、8ホールをグループで回る
② ２巡目は、団体戦で指定した打数でホールを回るルール設定やビンゴゲーム、障害物や通常使わないボールを用いるなど、グラウンドゴルフを使ったレクリエーションを行う
③ 最終回にスコア・参加回数等の年間表彰を行い、１年間の総まとめをする

（3）総　　評（参加者等延べ 208人）

　1巡目は通常のラウンド、2巡目はレクリエーション要素を取り入れたラウンドと楽しみ方を変えたことで、初心者から上級者まで幅広く楽しめる場を提供することができた。また、新たにグラウンドゴルフを始めた方も増え、参加者同士の交流も盛んに行われた。

　当定例会をきっかけに友好関係が広まり、有志で活動されるなど社会参加の促進にも繋がった。

スポーツ吹矢定例会

（1）目　　的

障害のある人とない人が共に参加し、お互いがふれあい交流を深めると共に、スポーツ吹矢による基本動作と呼吸法の習得により、健康の維持・増進と積極的な社会参加の促進を図る。

（2）内　　容

① 競技距離は5m、6m、8m、10mから選択
② 基本動作とスポーツ吹矢式呼吸法の確認
③ 競技を3ラウンド行う。競技後にスポーツ吹矢を使ったレクリエーションや個人練習を行う。
④ 一般社団法人日本スポーツ吹矢協会公認指導員による指導（年１回）

（3）総　　評（参加者等延べ242人）

多くの参加者が継続して参加され、呼吸や姿勢を意識しながらスポーツ吹矢を楽しまれた。毎回、基本動作とスポーツ吹矢式呼吸法の確認を行うことで、一人ひとりが自身の動作を見直す機会とした。また、参加者間でアドバイスや応援する姿が見られ、積極的な交流が図られた。

リズムでダンス教室

（1）目　　的

音楽に合わせて楽しく体を動かすことで運動量を確保し、体力の維持向上と社会参加の促進を図る。

（2）内　　容

① 音楽に合わせてウォーミングアップ
② メイン曲でダンス
③ クールダウン：ストレッチ

（3）総　　評（受講者等延べ192人）

音楽に合わせて身体を動かし、楽しむことに重点をおいて実施した。回数を重ねるにつれて、メイン曲の振り付けを覚え、最終的には次の動きの指示がなくても、見本を見るだけでスムーズに踊れるようになった。また、曲がかかると多くの受講者が笑顔になり、ダンスに取り組まれていた。上達しようと、ダンスの動きを撮影し、家に帰って練習をされる方もあり、アンケートでは、「毎回楽しみにしていた」、「運動不足やストレスの解消になっている」等の感想が多く聞かれた。

アクアビクス教室

（1）目　　的

水中で動くことの楽しさを体験し、体力の維持・増進を目指すとともに、交流を深めることで社会参加の促進を図る。

（2）内　　容

リズムに合わせて基本的な動きを中心とした水中運動を行う。

① ウォーミングアップ:水中ストレッチ

② メインエクササイズ:歩行(前後・左右・ツイスト)、ジャンプ、バランス運動、腕の曲げ伸ばし、スクワット、キック(前後・左右)、スカーリングを使った腹筋運動等

③ クールダウン:水中ストレッチ・リラックス

（3）総　　評(受講者等延べ166人)

音楽と先生のカウントに合わせて水中で身体を動かし、普段動かさない筋肉を意識して動かすことで、体力の維持・増進に繋がった。

受講者からは、「終わった後、体の調子や気分が良い」、「先生の教え方が楽しい」等の感想をいただき、継続的に参加される方が増加した。

アクアエクササイズ教室

（1）目　　的

障害のある人もない人も、水中で動くことの楽しさを体験し、相互にふれあい、交流を深めながら心身ともにリフレッシュすることで、健康づくりのきっかけとする。

（2）内　　容

ウォーミングアップ、水中ストレッチ(水中での体の動かし方等)、プールサイドを利用した水中運動、ボールやヌードル等の浮助具を使った認知症予防の水中レクリエーション、クールダウン

（3）総　　評 (受講者等延べ49人)

介護予防や認知症予防メニューを多く取り入れ、楽しみながら日頃からのリハビリを意識する内容とした。「楽しくて一時間があっと言う間に過ぎた」、「頭を使ったり、体を動かしたりでき、また、色々な人と交流もできて楽しかった」、「ボランティアの協力のお蔭で楽しい時間を過ごす事ができた」等の感想をいただき、受講者同士やボランティアとの交流も深めていただくことができた。

水中運動　知的教室

（1）目　　的

知的障害のある人が、水中で楽しく体を動かし、無理なく運動を行うことで、健康と体力の維持・増進を図る。

（2）内　　容

準備体操、水中歩行、ジャンプ、伏し浮きバタ足、クロール、ストレッチ等

（3）総　　評（受講者等延べ74人）

受講者の多くは、日頃の運動不足と肥満の解消を目的に、毎回楽しみに参加されていた。

前半は、水中歩行や陸上では困難なジャンプなど大きくダイナミックな動きを行った。歩行の時は歩幅を大きく、ジャンプ動作の時は少しでも高く跳ぶように声掛けをした。後半はクロールの泳法練習（伏し浮き、バタ足、クロールの手回し）を行い、「大きく手を回す」、「早くキックをする」などの声掛けや補助を行い、クロールの習得を目標とした。

受講者は、教室の後半になるにつれて頬が赤くなるなど熱心に取り組まれていた。

はじめてスイム（身体）教室

（1）目　　的

水泳を始めるにあたり、水中での体の使い方を覚え、無理なく楽しく水泳に取り組めるようになる。

（2）内　　容

水慣れ（歩行・ジャンプ）、伏し浮き・背浮きからの立ち方、呼吸、板キック（伏し・背）クロールプル（手回し）、クロール

（3）総　　評（受講者等延べ35人）

受講者の障害による可動域や泳力差によってグループを分けて指導を行ったことにより、回を重ねる毎に受講者の上達が顕著に表れた。特に水に対する恐怖心や体の緊張が強かった方は、一つ一つの動きがスムーズになり力をぬいて泳げるようになった。25mのクロールを完泳するという目標は達成できなかったものの、各々、受講前より泳力の向上がみられた。受講者からは、「あと少しで25m完泳できるので続けて練習したい」、「顔をつけて泳ぐことができたので続けたい」等の感想をいただけた。教室終了後も継続して日々個人練習に取り組まれている。

障害者スポーツ指導支援

（1）目　　的

当センターから遠隔地にある団体が行う障害者スポーツやレクリエーション等の事業に対して、センター指導員が現地へ出向き指導を行い、県民の健康維持・増進、余暇の充実を図るための一助とする。

（2）内　　容

① 療育教室

・湖の子園（草津市）　受講者等延べ234人　全6回
　水慣れ、水中での身体の使い方、介助方法を指導

・めだかの学校（東近江市）　受講者等延べ165人　全6回
　水慣れ、水中での身体の使い方、介助方法を指導

・くれよん（日野町）受講者等延べ40人　全3回
　水慣れ、水中での身体の使い方、介助方法を指導

・にこにこ教室（野洲市）　受講者等延べ72人　全3回
　水慣れ、水中での身体の使い方、介助方法を指導
　運動遊び、身体の使い方と家での親子遊びの指導

② 遠隔地

・湖西地域障害者生活支援センターわになろう（高島市）受講者等延べ191人　全8回
　身体の動かし方と補強運動、レクリエーション・軽スポーツ指導

・湖西地域障害者生活支援センターほろん（高島市）　受講者等延べ60人　全7回
　水泳・水中歩行・水中でのリラクゼーション指導と軽スポーツ指導

③ その他

・県立精神医療センターディケアjoy（ｼﾞｮｲ）スポ（精神障害）受講者等延べ199人　12回
　基礎的な運動と補強運動、軽スポーツ、レクリエーションの指導

・県立むれやま荘（入所者、通所者）受講者等延べ56人　全9回
　身体の使い方と補強運動、歩行練習。軽スポーツや球技の基本的な動きの指導等

（3）総　　評

① 療育教室でのプール指導は、水を介しての楽しみ方や、体の使い方について個々に対応し、保護者や保育士と相談しながらその子にあった介助方法を指導した。陸上での運動遊びでは、ハイハイやジャンプ、ケンケンなど全身を使った動きを繰り返し行った後、サーキットコースを作成し、楽しみながら自然に身体を使える内容とした。

② 高島市では、当センターの指導を心待ちにしていただいている。指導員は、受講者の顔ぶれを想定して、ルールや道具に工夫をし、一定の運動量が確保できるように指導を行った。
　また、プールでは個々の目標に応じて個別に指導を行った。

③ 精神医療センターでは、基本の指導内容に、自分達でルールを工夫して追加するなど充実した活動を展開されている。さらに、今年度は体力測定を取り入れて、自身の体力に対する関心を高め運動等への意欲向上に繋がるよう働きかけた。

④ むれやま荘の指導では、受講者に対し、積極的且ついかに楽しんで取り組んでいただけるかに重点をおいた内容とした。

親子水泳教室

（1）目　　的

障害のある小学生が水に慣れ、親子で水泳を楽しむ中で、集団でのルールを身につけるとともに泳力と集中力を養う。

（2）内　　容

①ラジオ体操

②腰掛けキック、水浴び、入水

③1回目　基本練習（全体の課題の中で、個々の泳力レベルに対応）

2回目～ 8回目　ウォーミングアップとサーキットは全体練習、本課題は泳力レベルで2班にわけて練習

④サーキット (泳力レベル別の課題を取り込んだメニュー)

（3）総　　評 (受講者等延べ107組 265人)

受講者 15組中 5組が初受講。泳力レベル別にクラスを分けたことで個々での課題に丁寧に取り組め高評価を得た。子どもの課題に共に向き合うことで、水の中での接し方から技術面の向上を指導者も保護者も実感できることが多く、アンケートでもその点について多く感想をいただいた。

水中らくらくアドバイス

（1）目　　的

身体（肢体）に重度の障害がある人が、水中でリラックスして楽しく体を動かす。介助者は、対象者と自らの負担が少なく、効果的な介助法を身につける。

（2）内　　容

前歩き、後歩き、伏し浮き、背浮き、リラクゼーション、個々に応じた介助方法等

（3）総　　評 (受講者等延べ4人)

身体（肢体）に重度の障害があり初めてプールを利用される方や介助方法に悩んでおられる方に指導員が随時入水し、個々に応じた体の動かし方や介助方法を、話を聞きながら一緒に考えて実践した。具体的には利用者の様子を見ながら介助方法等を提案するなど、利用者・介助者双方に納得していただけるよう取り組んだ。

利用者の身体の成長とともに介助者の負担が増し、プールの利用回数が減っていた方も、少しでも軽減できる介助方法を一緒に考えたことで、その後の利用回数が増え、年間を通して利用していただけるようになった。

卓球初級教室

（1）目　　的

卓球の基本技術を身につけ、ラリーができるようになるとともに、スポーツの楽しさを実感する。

（2）内　　容

フォアハンドストロークを中心に、少しでも多く打ち返せるように繰り返し練習する。

（3）総　　評（受講者等延べ11人）

ラケットの種類や持ち方の説明からフォアハンドを中心としたストローク練習まで段階的に指導を行った。今年度は、サウンドテーブルテニス（視覚障害者卓球）の希望もあり、自分とボールとの距離感をつかんでいただくことに重点をおき指導を行った。この教室をきっかけに顔見知りとなった仲間とともに卓球を楽しむ事で当センターの継続的な利用に繋がっている。

卓球ラリータイム

（1）目　　的

多くの相手とラリーを行い、交流を深める中で技量を高めていく。

（2）内　　容

6分サイクルで相手を代えてラリーを行う。参加者にはワンポイントアドバイスを行い、ラリーが続くように指導する。

（3）総　　評（参加者等延べ120人）

初参加の方から経験者まで、できるだけ多くの方とラリーを行うことで、受講者全体の技術の向上が見られ、ラリーが長く続くようになった。またラリー中の会話もはずみ、目的としている交流に繋がっている。受講者からは「身体を動かせて気持ちがよい」、「多くの方とラリーができて楽しい」等の感想が聞かれ、参加者皆さんが笑顔で卓球を楽しまれている。

水泳教室

（1）目　　的

障害のある人に目標を設定し、水泳の練習を通じて技術を高め、集団活動の中で社会性を養い、健康の増進と社会参加の促進を図る。

（2）内　　容

①各種目（泳形）・泳力レベル（初級・中級・上級）別に指導

②泳ぎの基本から泳法（キック・手回しのドリル練習、スイム、スタート・ターン等）

（3）総　　評（受講者等延べ162人）

今年度は、初級（6人）、中級（4人）、上級（3人）の 3つのクラスに分け、受講者のレベルに合った目標を設定して取り組んだ。また、各クラスで個々の課題に丁寧に対応することで、受講者は熱心に取り組まれ、上達がみられた。

受講者の中には、当センターの水泳記録会にも参加し、教室での練習の成果を存分に発揮される方もいた。

水泳選手育成教室

（1）目　　的

県障害者スポーツ大会および全国障害者スポーツ大会への出場を目指す新たな選手の発掘・育成をおこなう。

（2）内　　容

定期練習会の実施（毎週1回）

①陸上練習（小アリーナ）

準備体操や柔軟運動・体幹を中心とした筋力トレーニング

②水泳練習（プール）

泳力別グループ指導・泳法練習・スタート練習・ターン練習・飛び込み練習

（3）総　　評（受講者等延べ1288人）

新規の受講者が3人増え、新たな雰囲気の中で活気のある教室となった。本教室の目的でもある大会への出場については、受講者16人全員が県障害者スポーツ大会に出場した。また、1人が全国障害者スポーツ大会で自己ベストを更新し、1人がINAS2017世界選手権で2個の銀メダルと2個の銅メダルを獲得するなど、大きな成果が出ている。

バスケットボール選手育成教室

（1）目　　的

2024年に滋賀県で開催される『第24回全国障がい者スポーツ大会』に向けた選手の発掘と育成をはかり、県大会出場を目指す。

（2）内　　容

準備運動：ストレッチ

補強運動：腹筋・もも上げ・ケンケン・両足ジャンプ・ダッシュ・バービージャンプ・障害物ダッシュ・ＪＰクッションを使った片足立ち・ジャンプなど

基本練習：ボールハンドリング、ドリブル（その場・ストレート・ジグザグ）、パス、ディフェンス練習、シュート練習

応用練習：ランニングシュート、ドリブルシュート、パス＆シュート（2人組・3人組）、ドリブルなし（3対2、5対3）、ミニゲーム

（3）総　　評（受講者等延べ312人）

今年度より草津養護学校学区の中学3年生以上を対象に月2回開催した。滋賀県障害者スポーツ大会の出場を目指した教室で、バスケットボールの基本から実践、ルールの習得までを行い、毎回前半には体の使い方を習得できるような補強運動も行った。

障害者スポーツ大会に向けた練習会（アーチェリー競技）

（1）期　　日　平成29年5月7日（日）

（2）参加人数等　20人

（3）目　　的

アーチェリー競技を行うにあたっての基本的な知識と技術を学び、県障害者スポーツ大会出場を目指す。

（4）内　　容

道具の使い方、安全に行うためのマナー、競技ルール、実射練習

（5）協　　力　滋賀ＨＩＴＴＯアーチェリークラブ

（6）総　　評

滋賀ＨＩＴＴＯアーチェリークラブ協力のもと、県大会に出場する人と、今後県大会出場を目指す人を対象に練習会を開催した。

アーチェリーを初めてされる方が多く、クラブ員が道具の使い方から安全に競技をするためのマナー、競技ルール、実射練習等、受講者一人ひとりに対して丁寧に指導を行った。

アンケート結果からは、受講者全員が「今回の受講は役に立った」と回答され、その後開催された県大会にも多くの方が出場された。また、アーチェリークラブの練習に参加される方もあり、アーチェリーを始めるきっかけ作りにもなった。

県障害者スポーツ大会に向けた練習会（フライングディスク競技）

（1）期　　日　平成 29年 5月 7日（日）

（2）参加人数等　30人

（3）目　　的

フライングディスク競技を行うにあたっての基本的な知識と技術を学び、県障害者スポーツ大会出場を目指す。

（4）内　　容

ディスクの握り方、投げ方、競技ルール、アキュラシー、ディスタンス

（5）協　　力　滋賀県障害者フライングディスク協会

（6）総　　評

滋賀県障害者フライングディスク協会協力のもと、県大会に出場する人と、今後県大会出場を目指す人を対象に練習会を開催した。受講者は、県大会直前にフォーム等の確認をされる方から、初めてディスクを握られる方まで幅広く参加され、個々のレベルに応じて一人ひとり丁寧に指導を行った。結果、アキュラシー競技ではしっかり的を狙うことができるようになり、ディスタンス競技では飛距離が伸びた方が大勢おられた。受講者からは「すごく楽しかった」、「大会直前に良いアドバイスをもらえた」等の感想をいただくことができた。

水泳個別アドバイス

（1）目　　的

個別にアドバイスを行うことで、水慣れしていない人から、より上の技術を獲得したい人までそれぞれの泳力に合った入水やリラックス方法または泳法を習得する。

（2）内　　容

個人の目的・希望に応じた指導（歩行、水慣れ、四泳法など）

（3）総　　評（受講者等延べ 260人）

障害のある人もない人も、30分間指導員がマンツーマンで指導することや、受講者のニーズにあわせた指導をすることで、当センター人気の事業となっている。内容は水慣れから水中歩行、四泳法までと幅広く、様々な年齢や目的の方が受講されており、水泳を継続的に行っていただくきっかけにもなっている。受講者の中には、受講を重ねることで、今では25m泳ぐことができるようになり、当センターの水泳記録会や県大会の水泳競技に出場される方もあるなど成果が出ている。

健康・運動個別アドバイス

（1）目　　的

個別にアドバイスを行うことで、運動経験の少ない人が安心して受講でき、それぞれの障害や体力に合った基本的なストレッチのやり方や効果的な運動の方法を習得する。

（2）内　　容

個人の目的・希望に応じた指導

体組成測定による体成分分析 (脂肪量や筋肉量等の測定による部位別評価)

（3）総　　評（受講者等延べ5人）

個々のニーズに応じた指導を45分間マンツーマンで行った。体組成測定により自分の筋肉量や体脂肪量等、体の状態を理解していただく事でストレッチや運動方法の参考となり、健康に対する意識を高めていただくことができた。

また、アドバイスをきっかけにトレーニング室の継続的な利用にも繋がっている。

体力測定＆トレーニングアドバイス

（1）目　　的

自己の体力の現状を客観的に把握することにより、普段の運動の効果を確認するとともに、専門的なアドバイスを受けることで適切な運動方法を習慣化し、体力の維持、健康の増進および生活の質の向上を図る。

（2）内　　容

① 身長、体重、血圧、肺活量、握力、長座体前屈、ファンクショナルリーチ、開眼片足立ち、10メートル最大歩行、タイムドアップ＆ゴーテスト、大腿周囲・下腿周囲の測定

② 理学療法士からのトレーニングアドバイス

（3）総　　評（受講者等延べ34人）

受講者は真剣な表情で測定をされ、過去の測定結果と比較しながら一生懸命取り組まれていた。受講者からは、「前年より数値が下がっているところがあり、これからの目安になった」、「普段のトレーニングの成果があった」等の感想が寄せられた。

この体力測定をきっかけに日々の生活や運動習慣を見直し、次回の目標を立てるなど、体力の維持向上に繋げてもらえる良い機会となった。

琵琶湖一周に挑戦

（1）目　　的

水泳と水中歩行に一定の目標を持ち挑戦することにより、体力増進と社会参加の促進を図る。

（2）内　　容

①琵琶湖一周＝JR換算距離178kmとする。

②泳いだ距離または歩いた距離を、個人カードに記入する。

③毎月のトータル距離を翌月の月初めに集計し、結果を掲示する。

④達成回数に応じて記念品、メダルまたは達成証を贈呈し、年間50回以上挑戦された方には記録証を授与する。

⑤参加者全員に1年間の個人カードを記録冊子にして交付する。

（3）総　　評（参加者〈平成29年12月現在〉201人　表彰対象者44人）

「一周する」という大きな目標と区切りとなる表彰がプールの継続利用に繋がっている。また、現場においては参加者同士のコミュニケーションのきっかけになっており、交流や体力増進、社会参加の促進の一助となっている。

日本縦断に挑戦

（1）目　　的

エアロバイクとトレッドミルでの運動に一定の目標を持ち挑戦することにより、体力増進と社会参加の促進を図る。

（2）内　　容

①日本縦断は、北海道から沖縄までの鉄道・新幹線・飛行機を組み合わせた換算距離3,418kmとする。

②エアロバイクまたはトレッドミルで進んだ距離を個人カードに記入する。

③毎月のトータル距離を翌月の月初めに集計し、結果を掲示する。

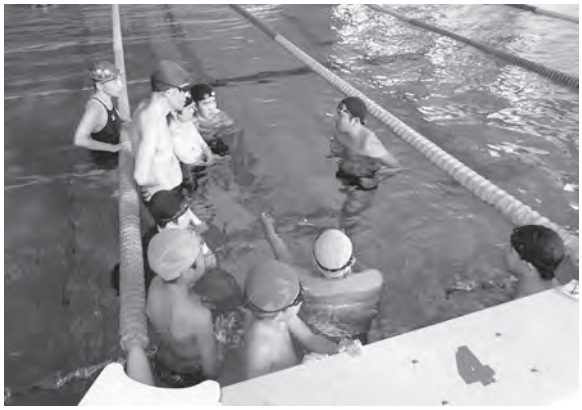
④達成回数に応じて記念品、メダルまたは達成証を贈呈し、年間50回以上挑戦された方には記録証を授与する。

⑤参加者全員に1年間の個人カードを記録冊子にして交付する。

（3）総　　評（参加者〈平成29年12月現在〉57人　表彰対象者数17人）

参加者は、日本縦断を目標に、トレーニングに励まれており、記録や地図で到達距離を確認する姿がよく見られる。また、授与式では参加同士で称えあう場面が見られ、交流を深められていた。

指導員と泳ごう



（1）目　　的

指導員と楽しく泳ぎながら実施種目に応じた技術を高める。

（2）内　　容

実施種目に応じた種目で、一緒に泳ぎながら指導を行う。（実施種目・担当指導員については、館内掲示による。また、指導内容はキック・スイム・手の回し方など）

（3）総　　評 (受講者等延べ 60人)

当日の実施種目（背泳ぎ・平泳ぎ・クロール）に応じて、指導員と一緒に泳ぎながら 1時間の中で泳法指導を行っている。障害の有無や年齢にかかわらず、多くの方が受講されている。

指導員は、受講者が個々に課題としている種目に応じて、技術向上に繋がるようなアドバイスに努めた。また、中には、教室以外でも受けたアドバイスを元に課題克服に向けて努力をする姿もみられるなど取り組みの成果が感じられた。

タイムトライアル

（1）目　　的

スタート練習とタイムの測定をすることで、大会に向けての調整に役立てる。

（2）内　　容

① ウォーミングアップ
② 飛び込み練習（ワンポイントアドバイス）
③ タイム測定

（3）総　　評（受講者等延べ 32人）

参加者は、県内だけにとどまらず京都府からも参加があった。事業開催時間の1時間30分のうち40分をウォーミングアップ・飛び込み練習（ワンポイントアドバイス）にあて、残りの50分をタイム測定とし、練習の成果を確認する場として実施した。

日頃のプール利用ではできない飛び込み練習ができる貴重な機会として大変好評で、またタイム測定をすることで個々のタイムを意識することにつながり、結果として泳力にも向上が見られた。

ヨガ

（1）目　　的

健康への関心が高まる中、楽しみながら心身ともにリフレッシュし交流を図る中での健康づくりの機会とする。

（2）内　　容

ストレッチ、ヨガ、体組成測定、体力測定

（3）総　　評（受講者等延べ101人）

メニューの中にトレーニングの要素も取り入れながら様々なポーズをとり、体中の筋肉をほぐしリラックスした状態になるよう取り組んだ。受講者の身体の悩みに合わせたヨガやストレッチの内容を行った。

また、教室開催の前半と後半に２回体組成測定と体力測定を行い、身体の変化を受講者に感じていただいた。受講者からは、「月１開催ではなく、週１で開催してほしい」、「身体を意識して動かせるいい機会」等の感想もいただき、毎回受講を楽しみにされていた。

セラバンドを使った筋力アップ

（1）目　　的

セラバンドの正しい使い方を学ぶことで介護を必要とせず生活していける筋力を身につける。

（2）内　　容

準備運動（足ふみ運動、ゆっくりから早く）ストレッチ（下半身、上半身）
セラバンドトレーニング
セルフマッサージ

（3）総　　評（受講者等延べ143人）

今年度から新たに実施した事業でゴムのバンドを用いて、障害のある人や高齢の方が安全に無理なく全身の筋力を向上させることができるプログラムである。受講者からは「皆で体を動かせることは気持ちがよい」、「今はまだ一人で行うには少し不安があるが、これからも継続して参加することで習得したい」、「最初はどこに効いているのかわからない時があったが、指導員のきめ細かい指導でほぼマスターできるようになった」等の感想をいただき、これからも続けていきたいという声が多く聞かれた。

ラジオ体操

（1）目　　的

障害のある人も、安全に運動を続け、自ら健康な生活を維持するため、体をまんべんなく動かすラジオ体操を行い、運動時の怪我を予防するとともに、継続的な健康の維持増進を図る。

（2）内　　容

ラジオ体操第一を行う

（3）総　　評（参加者人数等延べ2677人）

年間を通して開所日の朝9時25分から正面玄関ホールや多目的ホールで実施し、施設利用前の準備体操として定着を図った。当センターを利用する方々が、運動前にラジオ体操をすることで、全身運動を行うとともに怪我の予防に繋げることができた。また、個人利用者はもちろん、当センターで開催される大会の参加者や、団体利用者など、年間を通して多くの方に参加いただいた。参加者の中には全身を大きく動かしながらも、無理のない範囲で参加するなどの方もおられた。

介護予防セミナー

（1）目　　的

自宅で簡単にできる筋力アップや筋力維持の運動方法を学ぶことで介護を必要とせず生活していける筋力を身につける。

（2）内　　容

実技：自宅でできる簡単な筋力アップの方法

講義：日常の生活の中で運動することの大切さ

（3）総　　評（受講者等延べ41人）

スポーツジム等の機器を使って鍛えることができなくても、自宅やどこでも簡単に筋力アップや筋力維持の運動ができることを学んでいただいた。受講者からは「生活の中でトレーニングできることが多々あることがわかった」、「将来、介護してもらうことなく自力で生きていけるのが理想なので、筋力を鍛えることが大切なこと、また、そのヒントを色々教えていただいた」等の感想をいただいた。

地域体の使い方教室（幼児）湖北・湖西

（1）目　　的

当センターに通えない遠隔地の障害者に対して、当センターで開催している教室を県内各地で開催することにより、学習機会の提供を図り、サービス提供の均一化の一助とする。

（2）内　　容

①サークルでの運動(親子で座ってスキンシップあそび、体ほぐし、ジャンプ、バランス、フープなど)
②直線での運動(ハイハイ、高ばい、両足ジャンプ、かえるとび、ダッシュ等)
③サーキット(基本運動を取り込んだメニュー)
④ボールを使った運動・マット運動・障害物を使った運動

（3）総　　評（受講者等延べ46人）

長浜バイオ大学ドームを会場に、長浜・新旭養護学校区在住者を対象に今年度で２回目の開催となった。ゆったりまたはのびのびとした雰囲気の中で、様々な動きを親子で一緒に行ってもらうなど、一人ひとりのペースで必要に応じた動きが自然とできるように働きかけた。

地域体の使い方教室（ジュニア）　湖北・湖西

（1）目　　的

当センターに通えない遠隔地の障害者に対して、当センターで開催している教室を県内各地で開催することにより、学習機会の提供を図り、サービス提供の均一化の一助とする。

（2）内　　容

①サークルでの体操(ストレッチ、補強)
②並列での運動(ハイハイ、高ばい、ジャンプ、ケンケン等)
③サーキット(フープ、ミニハードル、跳ぶ・くぐる、平均台等でコース設定)
※２回目ボールの投げ方、４回目・５回目マット運動実施

（3）総　　評（受講者等延べ107人）

回を重ねる毎に教室の雰囲気に慣れ、できることが増えていった。指導者とのコミュニケーションが取れるようになることで、甘えが出る時もあったが、我慢ができたり、他の受講者を気遣うことができるようになった。受講者全員が毎回の教室を楽しみにしているとの感想だった。

短期水泳教室　湖北・湖東

（1）目　　的

当センターに通えない遠隔地の障害者に対して、当センターで開催している教室を県内各地で開催することにより、学習機会の提供を図り、サービス提供の均一化の一助とする。

（2）場　　所

甲良町保健福祉センター温水プール

（3）内　　容

泳力等を配慮して、小学生の部・中学生以上の部ともに3クラスに分けて指導

●ジュニア初級・中級・上級教室（小学生の障害者の部）

水慣れ・水中姿勢・呼吸法・け伸び・背浮き・バタ足・板キック・クロール

●初級・中級・上級教室（中学生以上の障害者の部）

水慣れ・水中姿勢・呼吸法・け伸び・背浮き・板キック・クロール・背泳ぎ

（4）総　　評（受講者等延べ341人）

小学生の部は①遊び要素を元にした水慣れ・基本姿勢作り②基本姿勢から泳ぎへ繋げる③泳ぎを整える、を目的に3つのクラスに分けて課題に取り組んだ。

中学生以上の部は個々のレベルに合わせて、①基本姿勢作り②クロール（基本）③クロール（呼吸）④クロール・背泳ぎのレベル別に指導を行った。

「子供の様子をしっかり見た無理のない指導で、とても成長を感じられた」、「大勢の仲間と共に楽しく取組めるのが本人にとって一番嬉しい充実したひと時になっている」等の感想をいただいた。

短期水泳教室　湖西

（1）目　　的

当センターに通えない遠隔地の障害者に対して、当センターで開催している教室を県内各地で開催することにより、学習機会の提供を図り、サービス提供の均一化の一助とする。

（2）場　　所

高島市　B & G温水プール

（3）内　　容

●親子初級・中級教室

（小学生の知的障害者とその親の部）

水慣れ、基本姿勢、呼吸法、け伸び、クロール、背泳ぎ等

●初級・中級教室（中学生以上の知的障害者の部）

基本姿勢、呼吸法、け伸び、クロール、背泳ぎ等

（4）総　　評（受講者等延べ142人）

集団としてのまとまりがみられるようになり、お互いが刺激となり相乗効果が得られ、自信に繋がったことで、技術面で大きな成果がみられた。

アンケートでは「先生の話を聞き、見て行動できるようになり、水中での体の使い方にパターンが増えた。よく声を掛けていただき心の安定と成長の度合いも変わるような気がする」、「子供の成長には、必要な教室」、「自分から友達に話しかけることが少ないが『僕、今日水泳なんだよ！』と嬉しそうに話していた。少し泳げるようになったことが自信になったように感じる」等の感想をいただいた。

障害者スポーツ体験指導事業

（1）目　　的

障害者団体からの要請に応じて、現地への職員派遣も含めて広く事業展開し、障害者の自立と社会参加の一層の促進を図る。

（2）内　　容

実　施　日	依　頼　先	内　　容	人数
平成29年 5月10日	テクノカレッジ草津	体力測定、レクリエーション	12 人
平成29年 5月17日	滋賀県立草津養護学校	卓球	22 人
平成29年 5月18日	滋賀県立草津養護学校	フライングディスク	19 人
平成29年 5月19日	滋賀県立草津養護学校	フライングディスク	22 人
平成29年 5月23日	あじさい園	体操	15 人
平成29年 5月26日	のびのび会（甲賀）	ボッチャ、レクリエーション	17 人
平成29年 6月11日	瀬田青年学級	水泳	16 人
平成29年 6月17日	栗東市障害者スポーツ大会実行委員会	カローリング、ボッチャ	405 人
平成29年 6月25日	草津市視覚障害者協会	ボッチャ、フライングディスク	100 人
平成29年 7月29日	草津スイミングサークル	水泳	27 人
平成29年 8月12日	大津市サマースクール南二班	ふうせんバレーボール	34 人
平成29年 9月14日	大地（(社福）虹の会）	水中運動	25 人
平成29年10月 5日	ハーモニー（(社福）虹の会）	アレンジボッチャ、輪投げ	28 人
平成29年10月 5日	ドリーム･だんだん（(社福）虹の会）	アレンジボッチャ、輪投げ	35 人
平成29年10月15日	大津市更生会	アレンジビンゴ	85 人
平成29年10月20日	新旭養護学校	フライングディスク、身体の使い方	58 人
平成29年11月22日	旧長浜市交流大会	フライングディスク	130 人
平成29年12月 1日	高島市視覚障害者福祉協会、安曇川町民生委員福祉部合同研修会	施設概要	40 人
平成29年12月 2日	甲賀市身体障害者更生会	カローリング、スポーツ吹矢	100 人
平成30年 1月13日	野洲ﾊﾝﾃﾞｨｷｬｯﾌﾟｽﾎﾟｰﾂｸﾗﾌﾞﾜｲﾜｲ21	スクエアステップ、ボッチャ	20 人
平成30年 2月11日	大津ホリデースクール南Ｃ青年部	ショートテニス、サーキット	10 人
平成30年 2月25日	積み木スイミング	水泳	34 人
平成30年 3月 1日	ハーモニー（(社福）虹の会）	リズム体操、トランプビンゴ	31 人
平成30年 3月 1日	ドリーム･だんだん（(社福）虹の会）	アレンジボッチャ	36 人
平成30年 3月 4日	全国パーキンソン病友の会滋賀支部	スポーツ吹矢	98 人
平成30年 3月 4日	甲賀市身体障害者更生会（ふうせんバレーボール大会）	トランプビンゴ、体操	150 人

パソコン教室

（1）目　　的

障がいのある人がＩＴの導入口としてスキルの向上を図り、ＩＴ利用促進の一助とし、参加者同士の親睦と交流を図る。

（2）内　　容

Excel（エクセル）の基礎を学ぶ。

① エクセルの基礎説明、表計算の作成

② 表計算の完成と印刷、家計簿（こづかい帳）の作り方

③ 家計簿（こづかい帳）の完成

（3）総　　評（受講者等延べ49人）

前年度のアンケートにあった意見を反映させて、今年度は、エクセルの基礎を学ぶ教室を開催した。受講者は、「エクセルを学んでスキルを上げたい」、「就職の一助としたい」、「家計簿をパソコンで入力できるようになりたい」など明確な目標を持って受講されていた。

教室ではパソコンに触れて学習していただく時間を多くし、より実践的なスキルを身に付けていただける内容となっており、アシスタントや補助員の協力もあり、手厚く対応ができた結果、受講者の満足度も高かった。

書道教室

（1）目　　的

障害のある人が書の教室に参加して、楽しみながら作品制作を通して自らを表現するとともに、作品を発表することで、積極的な社会参加の促進を図る。

（2）内　　容

① 本日の課題の提案

② 講師が見本を示しながら説明を行う

③ 大筆や小筆を使って作品を制作する

④ 講師に見ていただき、アドバイスを受ける

⑤ 通常は全紙の個人作品、障害者週間には全紙3枚分の大きな「筆伝」作品を展示する

（3）総　　評（受講者等延べ52人）

きれいに書くことを意識するのではなく、自分の今の字を表現することを目標に大筆を使って作品を制作した。今年度は、受講者3人が第37回滋賀県書展へ出品し、日頃の成果を発表するなど、社会参加の促進を図ることができた。

茶道教室

（1）目　　的

障害のある人が茶道教室に参加して、基本を身につけ、茶道を楽しみ情操を豊かにするとともに、参加者同士の交流と社会参加の促進を図る。

（2）内　　容

① 稽古に必要な諸道具の名前を覚える
② お菓子のいただき方と運び方の練習
③ お茶のいただき方と運び方の練習
④ 割稽古（帛紗（ふくさ）さばき、棗（なつめ）・茶杓（ちゃしゃく）・茶碗の清め方、茶筅（ちゃせん）通（とお）しの仕方等）
⑤ 個々の能力に応じたお点前（てまえ）を学び、通してできるように練習を行う

（3）総　　評（受講者等延べ133人）

継続の受講者が多く、生菓子や茶花で季節を感じながら、ゆったりとした時間を過ごしていただくことができる人気の教室である。教室では、受講者を2クラスに分け、個々のレベルに合わせたお点前に取り組み、ローテーションを決めて効率的に時間を使うことで満足度の向上に繋がった。

生け花教室

（1）目　　的

障害のある人が生け花教室に参加して、季節折々の花を愛で楽しみながら、花を生け、情操を豊かにし、教養を高めるとともに、受講者同士の交流と社会参加の促進を図る。

（2）内　　容

① 花材等の全般の説明
② 講師が見本を生けながら説明を行う
③ 色彩盛花、個性盛り花の基本型を手本に習いながら生ける
④ 生け終わった作品を講師に見ていただき、アドバイスを受ける
⑤ 受講者の作品を毎回1人づつ展示する

（3）総　　評（受講者等延べ86人）

受講者からの要望に応えて、今年度は全6回の教室として復活した。受講者は、季節感のある花材を楽しみながら、それぞれのペースで前向きに技術を吸収されていた。お花をとおして受講者同士の交流も活発に行われ、活気のある教室となった。

絵画教室スマイル☺

（1）目　　的

障害のある人が 気軽に参加できて、自由に表現できる場を提供し、文化活動の振興の一助とする。

（2）内　　容

① 本日のテーマの発表と説明
② テーマにそって自分の作品を制作する
③ 仕上がった作品を他の受講者の前で発表する
④ 作品を展示する

（3）総　　評（受講者等延べ 105人）

今年度から開催した新規教室である。前年度プレ事業としてワークショップを開催したが、そこで作成した作品展示の反響が大きく、募集定員 10人のところ 9歳から 50歳までの幅広い年齢層で 17人もの応募があった。

教室では、テーマを明確にすることや、講師がデモンストレーションをすることで、受講者が早く作品に入り込める雰囲気をつくる工夫をした。受講者は、集中して作品に向き合い、色や線を使って自らを表現して丁寧に一つの作品を作りあげた。

絞り染め体験教室

（1）目　　的

伝統工芸である絞り染めを体験して、世界に一つだけの自分の作品を制作するとともに、受講者同士の積極的な親睦と交流の促進を図る。

（2）内　　容

絞り染めの手ぬぐいを一人 2枚つくる

①「絞り染め」という手工芸についての紹介
② 講師が、本日の材料の確認と作品の説明をする
③ 講師が手順等を説明しながら見本を制作する
④ 講師の見本を見ながら、それを手本に受講者も自分の手ぬぐいを制作する
⑤ 質疑応答

（3）総　　評（受講者等延べ 23人）

京鹿（きょうか）の子絞（こしぼり） 伝統工芸士の木村氏を講師に迎えて、絞り染めの体験を楽しんだ。受講者からは、「初めての体験で大変興味深く、楽しい時間だった」、「思っていた以上の素敵な作品ができた」等の感想をいただき、大変好評であった。

ケーキづくり教室

（1）目　　的

障害のある人とその介助者がケーキづくり教室に参加して、楽しみながら季節感あふれるケーキをつくり、受講者同士の親睦と交流および社会参加の促進を図る。

（2）内　　容

①調理室横の別室で 3グループに分かれ「クリスマスリースケーキ」の作り方について説明を受ける

②調理室で班ごとに分かれ、ケーキを作る

（3）総　　評（受講者等 36人）

約４割の方が初参加。また、男性受講者が過去最高の８人とフレッシュな顔ぶれでの開催となった。障害の状態や経験等によって進行に時間差ができてしまったが、受講者全員がクリスマスケーキ１ホールを最後までつくることができた。

アンケートでは、「受講内容が難しかった」という意見もあったので、誰もが楽しく受講できる内容になるように検討していきたい。

ガーデニング教室

（1）目　　的

季節折々の植物を使って楽しみながら寄せ植えをし、その出来栄えを愛で、情操を豊かにするとともに、参加者同士の親睦と交流および社会参加の促進を図る。

（2）内　　容

春まで楽しめる素敵なコンテナガーデン

①使用する植物の説明

②講師が手順等を説明しながら見本を作製する

③講師の見本を見ながら、それを手本に受講者も自分の寄せ植えを作製する

④質疑応答

（3）総　　評（受講者等延べ 32人）

１年に１度の教室を楽しみにされている方が多く、毎年定員満了となる人気の教室である。受講者は、講師のアドバイスを受けながら、春らしい９種類もの草花の配置を考え、最後にチューリップの球根を植えて完成となった。春になって「チューリップの芽が出てきたよ」、「今もお花がきれいだよ」との経過報告を何人もの受講者からいただき、非常に満足度が高かった。

将棋と囲碁のつどい

（1）目　　的

障害のある人とない人が共に参加し、お互いが触れあい交流を深めるとともに、親睦を図り、棋力の向上と積極的な社会参加を促進する。

（2）内　　容

将棋・囲碁の自由対局

（3）総　　評（参加者等延べ134人）

将棋・囲碁という共通の趣味を持つ者同士が、普段対局をしない方と対局をすることで、参加者同士の交流が図れた。小学生から年配の方まで段級位関係なく、対局中は真剣に打ちながらも棋力向上のため、互いに意見やアドバイスをし合ったり、他の対局を観戦しながら勉強したりと、個々のレベルアップに繋げながらも楽しまれる様子が伺えた。また、参加者同士、障害の有無に関わらず、気さくに積極的に話されるなど交流も深められていた。

将棋と囲碁のつどい～プロ棋士を迎えての対局指導～

（1）期　　日　平成29年8月20日（日）

（2）参加人数等　20人

（3）目　　的

障害のある人とない人が共に参加し、お互いがふれあい交流を深めるとともに、親睦を図り棋力の向上と積極的な社会参加を促進する。

（4）内　　容

囲碁プロ棋士　古田直義（四段）の多面指しによる対局指導

（5）総　　評

今年度は囲碁のプロ棋士を迎えての対局指導を開催した。プロ棋士の対局指導を受けられた参加者は今回で2回目の方が3人、3回目の方が5人おられた。また、初めての参加者は 4人おられ、プロ棋士との対局に緊張しながらもワクワクされていた。参加者からは「自分の弱点をきっちり教えていただけた」、「大変、参考になった」、「もっと実力をつけて再挑戦したい」等の声もあり講評や対局に大変満足されていた。対局指導後にプロ棋士からいただいたアドバイスを参考に指し手を確認されるなど棋力の向上に努められていた。

地域文化教室

（1）目　　的

当福祉センターにおいて開催している文化教室を、遠隔地の障害のある方に対し、在住地近隣で開催することにより、県民サービスの均一化を図るとともに、参加者同士の交流と社会参加を促進する。

（2）内　　容

① プリザーブドフラワーアレンジメント教室
湖南福祉圏域（栗東ウィングプラザ）
湖西福祉圏域（湖西総合在宅サービスセンターほろん）

② アートフラワーアレンジメント教室　　湖北福祉圏域（長浜市保健センターびわ分室）

③ グラスアート教室　　甲賀福祉圏域（生活支援センターあかつき）

④ ハーバリウム教室　　大津福祉圏域（大津市立障害者福祉センター）

⑤ 料理教室　　東近江福祉圏域（近江八幡市総合福祉センターひまわり館）

（3）総　　評（受講者等延べ127人）

滋賀県下７福祉圏域に出向いて文化教室を開催し、様々な地域、様々な障害のある人に受講していただき、サービスの均一化に努めた。地域との繋がりも年々深まっており、これからもニーズに応えて更に交流を深めていきたい。

特別開催（プール休業期間に実施）

プールろ過装置の改修工事に伴うプール休業期間に臨時に事業、教室を開催した。

事　業　名	回　数	参加人数
体組成測定会	10回	117人

体組成測定会

自身の体重・体脂肪量・筋肉量等現在の身体構造を把握してもらい、今後のトレーニングに活かしていただくため測定の機会を提供した。

教　室　名	回　数	参加人数
ストレッチ教室	2回	10人
エアロビクス教室	1回	6人

ストレッチ教室

誰もが手軽にできるストレッチ体操で身体を動かす機会を提供した。

エアロビクス教室

アリーナで音楽に合わせて、楽しみながら身体を動かす機会を提供した。

３．更生相談事業

スポーツ医療相談

（１）目　　的

障害がある人に医療の専門的な立場から、障害の状態に応じた安全で効果的な運動内容と運動量や留意点などの指導助言を行い、健康管理、機能回復、体力の維持向上および社会参加の促進を図る。

（２）内　　容

①対象者

障害者手帳を所有する人、または当センターの利用者カードを所有している人で機能の維持や回復を望む人

②相談日時

原則として毎月２回、第２・第３水曜日　午後２時30分～４時30分（３枠）

③実施内容

（ア）予備調査

・相談内容の把握（申込用紙）

・問診による各種チェック（障害内容、既往歴、現病歴、健康状態など）

・相談項目、日時の決定およびスタッフへの連絡調整

（イ）健康状態の把握

身長、体重、血圧、心拍数、握力の測定および問診

（ウ）医療相談

・医師による各疾患相談、訓練内容の指導

・理学療法士による機能回復訓練の実技指導や日常生活での留意点などの指導

④相談内容

主な相談として

（ア）日常生活におけるリハビリについて

（イ）筋力の増強方法について

（ウ）具体的な訓練方法について

（エ）心肺機能の強化方法

（オ）運動実施時の留意点

⑤担当スタッフ

医　　師　　琴浦　良彦 氏（整形外科）

理学療法士　　小嶋　高広 氏・井上　卓也 氏

当センター指導員、看護師

（３）総　　評（相談者等55人）

相談者は日頃から感じている体調や悩み、主治医には尋ねにくいリハビリや病気のことなどについて話し、医師からアドバイスを受けられていた。また、運動や日常生活でのリハビリ方法については、理学療法士からわかりやすくかつ専門的に指導を受けていただくことができた。

相談者は膝・股関節障害や脳血管障害、内部障害の人が多く、相談後は指導を受けたリハビリや運動の方法を日々前向きに自宅やトレーニング室、プールを利用しながら積極的に取り組まれていた。

理学療法士によるリハビリ相談

（1）目　　的

理学療法士の立場から、障害の状態に応じたリハビリの指導・助言を行うことで、障害のある人の継続的なリハビリおよび自らがリハビリに取り組めるキッカケ作りとする。

（2）内　　容

①リハビリ実施状況の確認
②リハビリ内容の相談、指導
③日常生活、運動についてのアドバイス
④福祉用具、補装具等自助具についてのアドバイス

（3）総　　評（相談者等 19人）

相談者は股関節・膝関節障害のある方で、腰痛や筋力低下による悩みが多く、日々のリハビリの方法や体調維持についての相談が多かった。相談により、理学療法士による個別のメニューや日常生活での注意事項、補装具の使い方などの指導を受け、リハビリ内容を再確認していただくことができた。

定期的に相談を受けることで、相談者のリハビリ意欲を高め、結果的にリハビリを継続して実施することに繋がった。

アドバイスタイム水中歩行

（1）目　　的

水中歩行をアドバイスすることによって、体力の増進と社会参加の促進を図り、リハビリテーション効果の一助とする。

（2）内　　容

① 指導員による水中歩行を中心とした、リラクゼーションの方法をアドバイス
② 看護師による問診およびメディカルチェック
③ 理学療法士による水中でのアドバイス

（3）総　　評（受講者等延べ 359人）

受講者は、水の抵抗を利用した水中歩行に効果大である股関節・膝関節障害の人の利用が多かった。医療相談での医師の指示のもと、理学療法士のプール内での個別指導は医学的な観点からのわかりやすい説明で大変好評だった。

また、重点指導の参加者からは、「同じ疾患の人と一緒に体操や水中運動をすると情報交換ができて良い」、「体の動かし方を普段より細かく聞くことができて、良く理解できた」等の感想をいただき、仲間づくりや日々のリハビリの向上に繋がった。

楽しく笑顔でリハビリ教室　【他機関との連携事業】

（1）目　　的

在宅のパーキンソン病の人に障害やリハビリ等に関する専門的な指導、助言を行い、健康管理、機能回復、体力の維持向上および社会参加の促進を図る。

（2）内　　容

医師、理学療法士、看護師、体育指導員等が専門分野に立って、体力測定、レクリエーション、医療講演・相談等を実施。

（3）連携機関

県立総合病院、県立リハビリテーションセンター、県障害福祉課、若草診療所、近江温泉病院

（4）推進会議　年２回実施　　推進小委員会　年２回実施

（5）総　　評（受講者等延べ 337人）

教室に参加して、身体の動きづらさや体力の低下を実感しているという感想がしばしば見られた。自宅では動きづらさを感じる機会が少ないことから、運動継続の必要性を意識しにくくなるため、１回の教室でも動きづらさを実感することで運動の再開や継続に繋がるようになった。また、今年度より平成 22 年度からの受講者に各講演等に参加を募り、６人の参加があった。当教室受講者の有志で構成された「スマイル会」という３年目になるグループに、これまでの活動実績を教室時に報告していただくこともできた。

地域支援　楽しく笑顔でリハビリ

（1）目　　的

地域において、パーキンソン病の人に障害やリハビリ等に関する専門的な指導、助言を行い、健康管理、機能回復、体力の維持向上および社会参加の促進を図る。

（2）内　　容

スポーツ吹矢･ふうせんバレーボール･ストレッチなど

①湖北圏域（長浜）2回

②東近江圏域（東近江保健所）1回

③甲賀圏域（甲賀保健所）3回　④湖南圏域（草津保健所）3回　⑤高島圏域（高島保健所）３回

⑥湖東圏域（彦根保健所）2回

（3）総　　評（受講者延べ 188人）

当センター内で「楽しく笑顔でリハビリ教室」の取り組みをはじめてから8年目になるが、年を重ねるごとにパーキンソン病の人が地域でリハビリや交流が持てる場を提供する必要性を感じ、4年前から各保健所などの関係機関と連携し地域での開催を進めてきた。現在県内6圏域で開催が定着してきている。受講者はスポーツ吹矢やボッチャの体験をしたことで、体を動かすことの必要性を実感し、スポーツ吹矢を購入して自宅でも意欲的に練習をされている方もおられる。

４．養成・研修事業

ボランティア実践講座

（１）期　　日
　①　　平成 29年　4月 28日（金）
　②・③ 平成 29年　5月　7日（日）
　④　　平成 29年　6月　9日（金）

（２）参加人数等
　①4人　②4人　③4人　④6人

（３）目　　的
　当センターが主催する事業運営等を進めていくため、ボランティアとしての知識・技術を学ぶことを目的とする。

（４）内　　容
　①スポーツ吹矢定例会
　②県障害者スポーツ大会に向けた練習会（アーチェリー競技）
　③県障害者スポーツ大会に向けた練習会（フライングディスク競技）
　④グラウンドゴルフ定例会

（５）総　　評
　当センター事業に協力し実践を積んでいただく中で、事業内容や障害に関する理解が深まり、ボランティア活動への意識の向上が図れた。

（６）平成 29 年度 ボランティア登録状況
　登録者数　92人（更新者 75人・新規者 17人）

ボランティア養成講座

（１）期　　日　平成 30 年 3 月 24 日（土）

（２）参加人数等　29人

（３）目　　的
　当センターが主催する事業運営等を円滑に進めていくため、各種事業に協力・支援していただくボランティアの養成とスキルアップを図るため、ボランティア養成講座を開催し、ボランティアとしての知識・技能を学ぶことを目的とする。

（４）内　　容
　準備体操、セラバンドを使った補強運動、
　アリーナで行う教室（フライングディスク、ボッチャ、スポーツ吹矢等）の体験

（５）総　　評
　参加者には、当センターがボランティア協力を必要としている教室の内容を実際に体験することで、障害のある方への理解と支援方法を知っていただく良い機会となった。

障害者レクリエーションを考える

（1）期　　日　　平成29年10月28日（土）

（2）参加人数等　7人

（3）目　　的

あらゆる障害区分の人たちに道具やルールを工夫し、楽しめるレクリエーションや軽スポーツを参加者自らが考え、各現場に持ち帰ることで、より多くの障害者の交流や活動に活かす。

（4）内　　容

情報交換会：「各現場で取り組んでいる工夫やアイデアの紹介」

実　　技：「障害程度に応じたレクリエーションや軽スポーツの種目・道具・ルール」を考えながら実施する

（5）総　　評

既製品を使ってレクリエーションや軽スポーツをするのではなく、新聞紙を丸めて大きさや硬さの違うボールを作ったり、ポールを作るというような、身近なものを利用しての道具作りから行った。また、ルールや作戦を皆で考えることで工夫次第で楽しさが広がるようなアイデアを出し合った。

参加人数は少なかったが、参加者の各施設毎での取り組みや、若い指導員さんが日々の関わり方の中で自分達も一緒になって楽しめる取り組みやアイデア等を聞くことができ、参加者が互いに持ち帰ってもらえるものが多くあり有意義な研修となった。

５．広報・啓発事業

広報・啓発

（１）目　　的

障害者団体をはじめ、行政機関、施設利用者ならびに施設見学者等に対し、当センターの概要や事業内容等について周知を図る。

（２）内　　容

①印刷物

・「センターだより」年４回各 9,000 部
・「事業案内ポスター」Ｂ２・300 枚
・「利用のてびき」2,000 枚
・「利用カレンダー」ポケットサイズ 4,000 枚
・「点字版　事業案内チラシ」20 部
・「点字版　プール臨時休業のお知らせ」10 部
・「平成 28 年度年報」200 冊
・「事業案内チラシ」Ａ４・13,000 枚
・「施設案内パンフレット」1,200 枚
・「点字版 利用カレンダー」20 部
・「点字版 利用者アンケート」20 部

②広　報

行事、教室等のお知らせや受講者の募集を広く県民等に周知するため、県・市町広報誌、各新聞紙面等に登載依頼をした。また、当センターの概要等をインターネットにより周知した。

③情報提供

来所者のふれあいの場 (ラウンジ)に月刊誌や季刊誌等を常備し、福祉情報等を提供した。また館内はＷｉ－Ｆｉ環境を整備し、情報入手の利便性を高めた。

④広　聴

事業ごとにアンケート等を取り、広く意見を求めた。

⑤渉外活動

県内関係機関へ出向き、作成したチラシを配布し、周知を図った。

・滋賀県庁障害福祉課、スポーツ局、国体準備室
・県内保健所(7か所)
・滋賀県立小児保健医療センター
・特別支援学校(16学校)
・県内市町支所障害福祉担当課
・県内市町療育センター
・滋賀県障害者スポーツ協会
・滋賀県体育施設協会
・滋賀県立リハビリテーションセンター
・滋賀県立精神医療センター
・県内市町障害福祉担当課 (19市町)
・県内市町社会福祉協議会
・県内市町教育委員会 (19市町)
・滋賀県立視覚障害者センター
・彦根児童家庭相談センター　　等

６．自主事業

（１）目　　的

障害者福祉センターの設置目的に合致し、かつ管理業務の実施を妨げない範囲において障害者スポーツの振興と健康増進を図る。

（２）内　　容

①個別サポート

事　業　名	期　　間	延受講者数
水泳個別アドバイス	通年	8 人
健康運動個別アドバイス	通年	1 人

②バックアップ教室

事　業　名	回　　数	延受講者数
タイムトライアル	12 回	131 人

③地域支援　障害者スポーツ福祉体験指導事業

実　施　日	依　頼　先	内　　容	人数
平成29年 6月24日	びわこ成蹊スポーツ大学	施設概要、障害者理解	35 人
平成29年 6月28日	立命館大学	障害者スポーツの成立条件	1 人
平成29年 7月 9日	滋賀県理学療法士会	滋賀県の障害者スポーツの実態	204 人
平成29年 7月13日	彦根市民生委員障害者福祉部会	施設概要、ボッチャ	41 人
平成29年 7月25日	立命館大学	生涯スポーツ論	3 人
平成29年 8月12日	同志社大学	障害者理解、障害者スポーツ	10 人
平成29年 9月 1日	南笠東学区社会福祉協議会民生福祉部会	施設概要、障害者スポーツ	17 人
平成29年 9月 5日	県民生活部県民活動生活課	パラスポーツの現状と課題	19 人
平成29年 9月 15日～18日	中級障がい者スポーツ指導員養成講座	地域での障がい者スポーツの取り組み	187 人
平成29年10月13日	滋賀県立愛知高等養護学校	フライングディスク、ボッチャ	24 人
平成29年11月 9日	大津市立瀬田北中学校	障害者理解、ボッチャ	28 人
平成29年11月15日	守山市立守山南中学校	障害者理解、ボッチャ	36 人
平成29年11月29日	日野町立南比都佐小学校	障害者理解、ボッチャ	74 人
平成30年 2月15日	私立光泉中学校	車椅子バスケットボール、ボッチャ	97 人

7. 運営会議等

(1)福祉センター運営協議会

滋賀県立障害者福祉センターの効率的な運営を図るため、指定管理者である公益財団法人滋賀県身体障害者福祉協会会長は、障害者団体や関係団体、関係行政機関等から選出された委員で構成される「滋賀県立障害者福祉センター運営協議会」を設置している。

運営協議会委員

選　出　母　体	役　職　名	委員氏名
公益財団法人滋賀県身体障害者福祉協会	会長	中村　裕次
公益財団法人滋賀県身体障害者福祉協会	監事	太田千惠子
公益社団法人滋賀県手をつなぐ育成会	理事長	﨑山美智子
社会福祉法人滋賀県障害児協会	理事長	乗光　秀明
社会福祉法人滋賀県視覚障害者福祉協会	会長	大橋　博
一般社団法人滋賀県ろうあ協会	事務局長	熊田　寿貴
特定非営利活動法人滋賀県脊髄損傷者協会	常務理事	前野　奨
特定非営利活動法人滋賀県難病連絡協議会	理事	駒阪　博康
障害者の生活と権利を守る滋賀県連絡協議会	副会長	渡邉　武
社会福祉法人滋賀県社会福祉協議会	福祉用具センター所長	平　芳典
滋賀県障害者スポーツ協会	専務理事	中村　道也
滋賀県児童成人福祉施設協議会	理事	伴　英治
滋賀県特別支援教育研究会	自閉症・情緒障害教育研究部会長	﨑野　温代
滋賀県高等学校等教育研究会特別支援教育研究部会	草津養護学校長	安藤　清代
滋賀県立リハビリテーションセンター	事業推進係係長	高松　滋生
滋賀県立精神医療センター	主幹	上野　幸子
滋賀県立むれやま荘	社会リハビリ課長	出野津与志

運営協議会開催状況

開催年月日	審　議　事　項
平成 29 年 9 月 8 日	・平成 28 年度事業実施結果について センター事業実績 施設利用状況 ・平成 29 年度事業の実施計画について センター事業実施計画 ・その他 県立施設の長寿命化対象施設予防保全工事について 気象による特別警報発令時の取扱いについて

（2）福祉センター第三者委員会

公益財団法人滋賀県身体障害者福祉協会が運営する滋賀県立障害者福祉センターで、提供する福祉サービスにおける利用者およびその家族等からの苦情に対し、社会性や客観性を確保し、利用者の立場や特性に配慮した適切な解決・改善に努めるため、第三者委員を設置している。

第三者委員

機関・団体		役職名	委員氏名
同志社大学	中立的立場	助教	河西　正博
公益財団法人滋賀県身体障害者福祉協会	事業者代表	監事	太田千恵子
公益社団法人滋賀県手をつなぐ育成会	利用者代表	理事長	﨑山美智子

第三者委員会開催状況

開催年月日	審議事項
平成 30 年 3 月 16 日	・平成 29 年度苦情、要望等の解決状況について ・平成 29 年度および平成 30 年度のセンター事業について

8．研修状況等

（1）研修受講等

①資格取得：　赤十字救急法救急員　・　赤十字水上安全救急員
スクエアステップ指導員　・　初級障がい者スポーツ指導員

研　　修　　名	実施月	主　催　者	受講者数
職員研修　　トレーニング指導	4月	当センター　業務課	10人
職員研修　　防災監視盤確認	5月	当センター　防災管理者	17人
スクエアステップ指導員資格認定講習会	5月	特定非営利活動法人スクエアステップ協会	1人
第78回全国体育施設研究協議大会	6月	公益財団法人　日本体育施設協会	1人
水上安全法	6・7月	日本赤十字社　滋賀県支部	1人
誰もが学べる「発達障害」の基本	6月	社会福祉法人県社会福祉協議会	1人
職員研修　　スズメ蜂対処法	7月	当センター　管理課	17人
幼児期からのアクティブ・チャイルド・プログラム普及講習会	7月	公益財団法人日本体育協会日本スポーツ少年団	1人
共生社会を支えるための障害児・者とのコミュニケーション技術研修会	7月	全国障害者総合福祉センター	1人
救急法基礎講習・救急員養成講習会	7月	日本赤十字社　滋賀県支部	2人
まずはここから!基本ビジネスマナー	9月	アイデム　人と仕事研究所	1人
部下を「自分で成長する社員」に育てるOJT法	9月	アイデム　人と仕事研究所	2人
アーチェリー教室	9・10月	公益財団法人　京都市体育協会	1人
職員研修　　ストレッチ指導	10月	当センター　業務課	7人
職員研修　　体組成計指導	11月	当センター　業務課	10人
職員研修 オフィスで実践！アンガーマネジメント ～怒りの感情をコントロールするために～	11月	同仁会クリニック（社団）	17人
職員研修　人権啓発研修 ～自他尊重のコミュニケーションと職場の研修～DVD	12月	当センター　管理課	13人

②県障害者スポーツ協会事業への派遣

内　容・場　所	期　日	人数
県障害者スポーツ大会フライングディスク競技（長浜）	5月21日	1人
県障害者スポーツ大会アーチェリー競技（当センター）	6月　4日	1人
スペシャルスポーツカーニバル（長浜）	7月　1日	1人
県障害者スポーツ大会水泳競技（当センター）	8月27日	5人
県障害者スポーツ大会陸上競技（皇子山）	9月10日	1人
県障害者スポーツ大会卓球競技（草津）	11月　5日	1人

③全国障害者スポーツ大会（愛媛県）
合宿・練習会・大会に役員コーチとして1人派遣

（2）研修生（実習）の受け入れ状況

目　　的
実習は、実習生が当センターの機能および施設利用者のもつニーズに関して理解を深めるとともに、必要とする知識および実践の方法を習得し、もって障害者福祉の増進に寄与する。

学　　校　・　施　　設	人数	期　　間
滋賀医科大学医学部医学科（早期体験実習）	4人	平成29年8月22日～8月25日

Ⅱ　クラブ活動

クラブ登録数 13

登録クラブ名	センターでの主な活動内容
輪悠会（股関節障害者　水泳・スポーツ吹矢）	金曜日の午前練習
トップシャトル滋賀（バドミントン）	土曜日・日曜日・祝祭日の夜間練習 大会及び交流会を主催
LAKE SHIGA バスケットボールクラブ （車椅子バスケットボール）	水曜日の夜間練習 近畿リーグ及び各大会参加
滋賀県ろうあ協会　卓球部	土曜日練習 各大会参加
滋賀ＨＩＴＴＯアーチェリークラブ	土曜日・日曜日・祝祭日の午前練習 各大会参加・大会主催
INFINI（車いすツインバスケットボール）	金曜日の夜間練習 各大会参加・大会主催・講習会主催
滋賀車いすテニスクラブ	月２回土曜日の夜間練習 各大会参加・合宿実施
滋賀県障害者フライングディスク協会	火曜日の夜間練習 大会及び講習会主催
レイクイーグル（電動車椅子ホッケー）	月２回金曜日の夜間練習 交流試合実施
びわこ卓球クラブ	月１回土曜日の午後練習 大会主催
グローバルハート（球身動）	木曜日の夜間練習 演武会開催
ホワイトドラゴンズ （精神障害者ソフトバレーボールクラブ）	木曜日の夜間練習 各大会参加
ライトニング滋賀（ボッチャ）	火曜日と木曜日の夜間練習 各大会参加

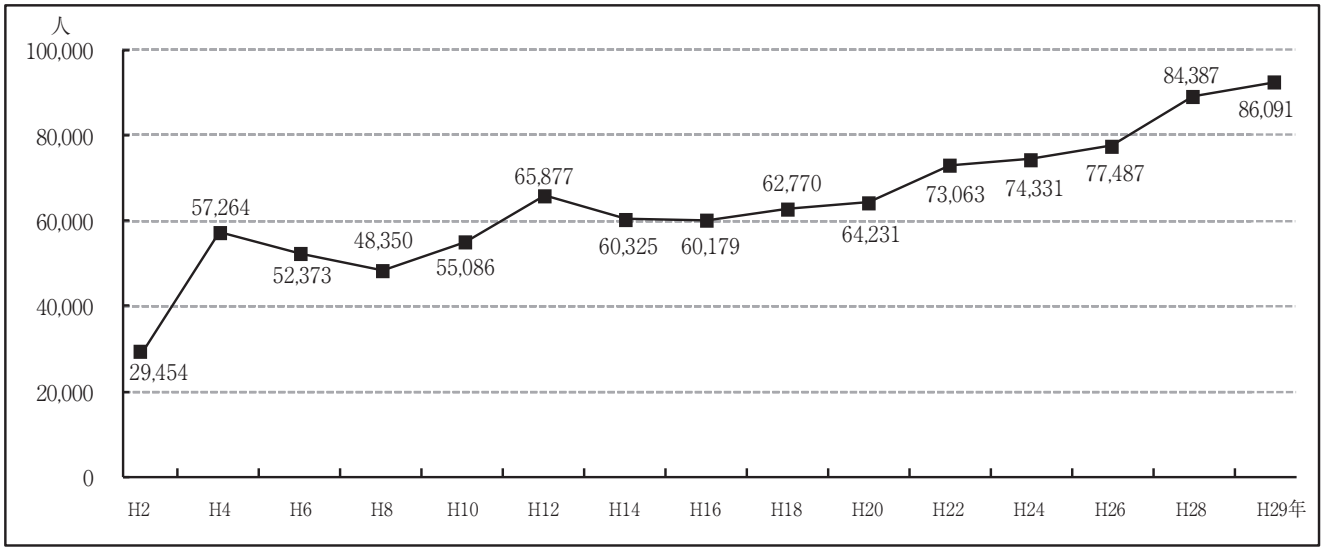
・各クラブ共に定期的な活動を続けられ、新会員への働きかけにも熱心に取り組まれている。中には近畿大会を突破し全国大会に出場するクラブや、東京パラリンピックへの出場を目指し国際大会にも出場される選手が出たクラブや、余暇活動の場を広げられているクラブもある。

Ⅲ　利　用　状　況

概　　要

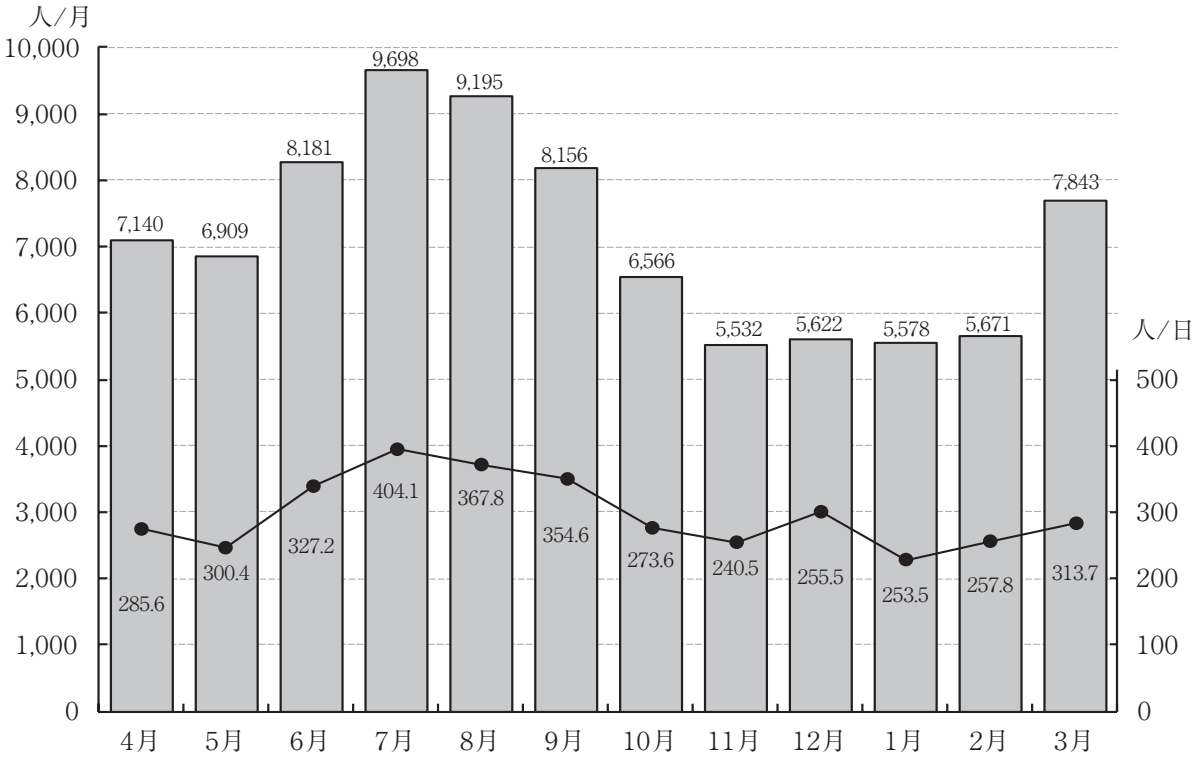
平成 29 年度の福祉センター利用は、開所日 283 日で延べ人数 86,091 人となり、延べ累計人数は 1,776,685 人となった。

年度別利用者数



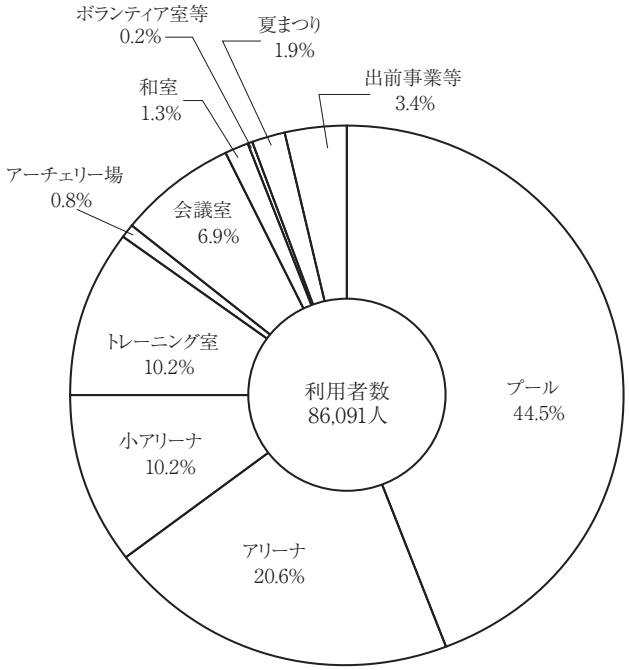
月別延利用状況および１日平均利用者数

月別の利用状況は、全体的に夏季が多く７月が9,698人と最も多く、次いで８月の9,195人となっている。最も少ない月は、11 月の 5,532 人となっている。（長寿命化工事のため、施設利用制限したのが要因と考えられる）１日当たりの平均利用者は、年平均で 304.2 人、7 月では 404.1 人、8 月は 367.8 人となっている。



施設別利用状況

施設利用状況をみると、プール 38,345 人 (44.5％) が最も多く、アリーナ 17,767 人 (20.6％)、トレーニング室 8,752 人 (10.2％) の順となっている。これを個人･団体別にみると、個人利用では、プール 25,704 人 (73.0％)、トレーニング 8,495 人 (24.1％)、となり、団体では、アリーナ 17,524 人 (36.5％)、プール 12,641 人 (26.3％)、小アリーナ 8,597 人 (17.9％) の順となっている。

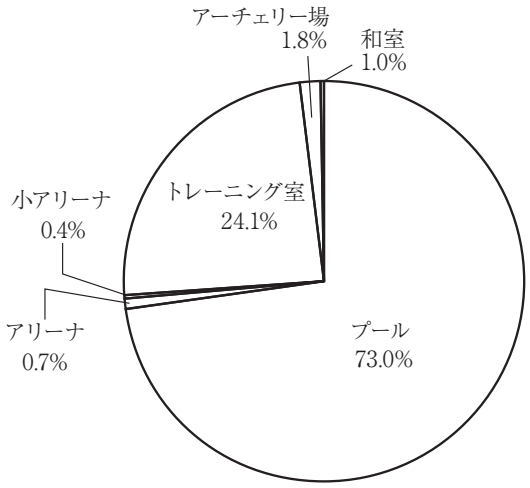


（単位：人）

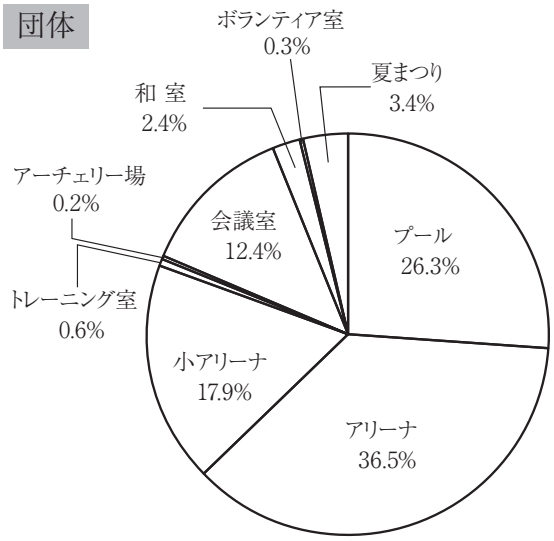
施　設	利用者数	利用割合
プ　ー　ル	38,345	44.5%
ア　リ　ー　ナ	17,767	20.6%
小 ア リ ー ナ	8,744	10.2%
トレーニング室	8,752	10.2%
アーチェリー場	704	0.8%
会　議　室	5,966	6.9%
和　　室	1,160	1.3%
ボランティア室等	137	0.2%
夏　ま　つ　り	1,626	1.9%
出 前 事 業 等	2,890	3.4%
合　　計	86,091	100.0%

個人、団体別利用状況

個人



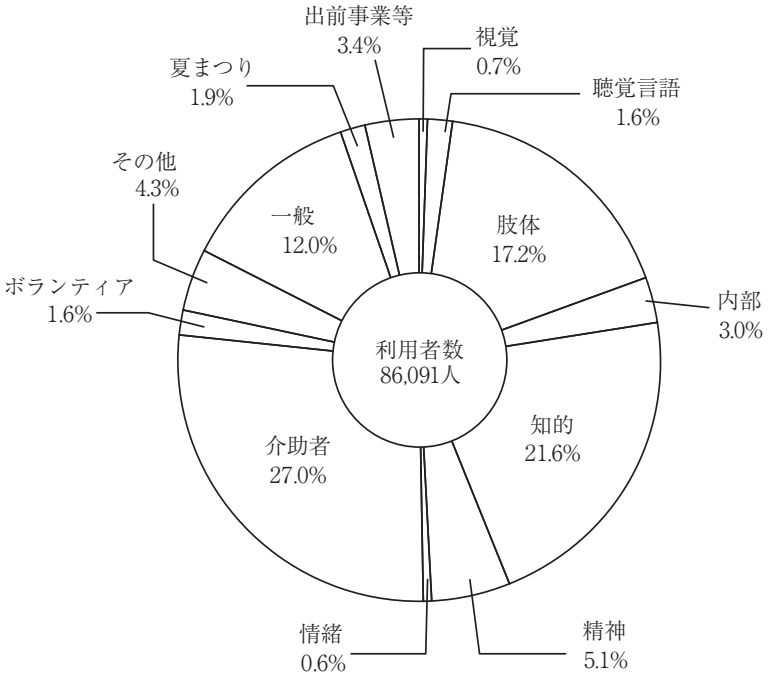
団体



（単位：人）

	プール	アリーナ	小アリーナ	トレーニング室	アーチェリー場	会議室	和　室	ボランティア室等	夏まつり	合　計
個　人	25,704	243	147	8,495	614	0	1	0	0	35,204
団　体	12,641	17,524	8,597	257	90	5,966	1,159	137	1,626	47,997

障害別等利用状況

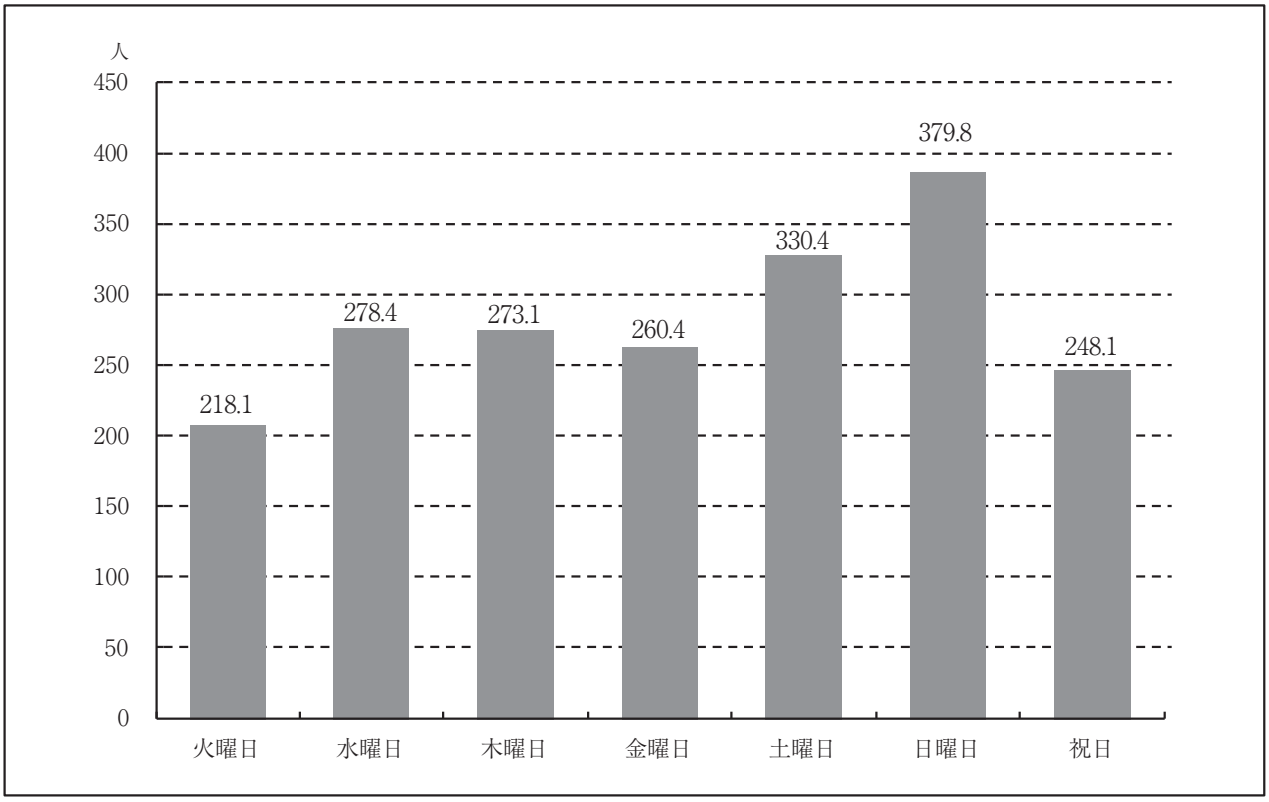


（単位：人）

障害等	利用者数	利用割合
視　　覚	636	0.7%
聴覚言語	1,341	1.6%
肢　　体	14,828	17.2%
内　　部	2,608	3.0%
知　　的	18,570	21.6%
精　　神	4,366	5.1%
情　　緒	494	0.6%
介助者	23,286	27.0%
ボランティア	1,400	1.6%
その他	3,713	4.3%
一　　般	10,333	12.0%
夏まつり	1,626	1.9%
出前事業等	2,890	3.4%
合　　計	86,091	100.0%

曜日別利用状況

曜日別の１日当たりの平均利用状況をみると、日曜日 379.8 人、土曜日 330.4 人となっている。



地域別・障害別利用状況（実人数）

障害	個人利用																	貸切り利用								合計
	大津市	彦根市	長浜市	近江八幡市	草津市	守山市	栗東市	野洲市	湖南市	甲賀市	高島市	東近江市	米原市	湖東	小計	県外	小計	学校施設	障害者団体	登録クラブ	センター主催	行政	その他	一般	小計	
視覚	76	0	0	31	140	18	31	74	0	11	34	0	0	0	415	0	415	22	113	0	69	0	7		211	626
聴覚言語	72	0	0	125	23	23	85	0	0	0	0	2	0	0	330	0	330	37	406	212	72	1	0		728	1,058
肢体	3,176	114	2	45	2,208	406	390	125	324	349	0	88	10	0	7,237	52	7,289	610	1,624	2,419	1,816	0	4		6,473	13,762
内部	1,026	0	0	185	743	49	43	1	217	2	7	59	0	0	2,332	0	2,332	22	62	8	145	0	1		238	2,570
知的	3,060	5	0	93	2,301	525	795	255	171	412	4	23	2	15	7,661	11	7,672	5,715	1,296	598	1,394	4	3		9,010	16,682
精神	965	4	5	27	414	155	249	15	31	52	11	34	6	2	1,970	113	2,083	1,460	153	439	97	0	0		2,149	4,232
情緒	0	0	0	0	1	0	12	0	0	0	0	0	0	0	13	0	13	410	3	3	15	24	0		455	468
介助者	3,589	8	0	134	3,117	573	725	384	268	297	25	106	15	8	9,249	62	9,311	4,412	2,757	2,294	2,049	44	33		11,589	20,900
ボランティア	571	0	0	0	372	0	1	0	0	10	0	0	0	0	954	0	954	0	0	0	286	0	0		286	1,240
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	413	1,198	57	1,046	7	361		3,082	3,082
一般															4,805		4,805							3,585	3,585	8,390
合計	12,535	131	7	640	9,319	1,749	2,331	854	1,011	1,133	81	312	33	25	34,966	238	35,204	13,101	7,612	6,030	6,989	80	409	3,585	37,806	74,158

夏まつり実人数　1,148

夏まつりは区分なしであるため合計に計上してある

月別・施設別利用状況

（単位：人）

月 施設	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	延人数	月平均
プ　ー　ル	3,675	3,503	3,877	3,991	4,623	3,510	3,114	1,770	1,674	2,536	2,557	3,515	38,345	3,195
ア リ ー ナ	1,650	1,573	1,322	1,513	1,949	1,495	1,345	1,343	1,648	1,316	1,156	1,457	17,767	1,481
小アリーナ	632	667	783	708	734	825	682	839	622	618	816	818	8,744	729
トレーニング室	763	694	839	873	834	731	648	641	620	616	676	817	8,752	729
アーチェリー場	84	96	110	73	69	67	40	43	16	13	21	72	704	59
会　議　室	316	278	642	541	694	940	319	366	687	243	260	680	5,966	497
和　　室	20	41	78	85	199	400	106	35	42	13	60	81	1,160	97
ボランティア室等	0	0	12	24	16	9	14	7	10	36	0	9	137	11
医　務　室	581	495	548	516	545	520	459	359	257	345	378	495	5,498	458
計	7,140	6,909	8,181	9,698	9,195	8,156	6,566	5,532	5,622	5,578	5,671	7,843	86,091	7,174
出前事業等	0	57	518	264	77	179	298	488	303	187	125	394	2,890	
開 所 日 数	25	23	25	24	25	23	24	23	22	22	22	25	283	
日　平　均	285.6	300.4	327.2	404.1	367.8	354.6	273.6	240.5	255.5	253.5	257.8	313.7	304.2	

夏まつり延べ人数	1,626

夏まつりと自主事業は区分なしであるため合計に計上している

（注）　合計には、医務室の利用人数を含まない。

施設別・障害別利用状況

（単位：人）

場所 障害	プール	アリーナ	小アリーナ	トレーニング室	アーチェリー場	会議室	和　室	医務室	ボランティア室等	合　計	構成比（%）	月平均
視　覚	306	117	57	129	0	25	2	81	0	636	0.7%	53
聴覚言語	187	522	126	64	126	192	115	13	9	1,341	1.6%	112
肢　体	6,552	3,410	1,189	1,941	297	1,305	113	2,930	21	14,828	17.2%	1,236
内　部	940	100	45	1,413	6	98	4	1,800	2	2,608	3.0%	217
知　的	9,769	3,371	3,051	1,483	0	605	280	401	11	18,570	21.6%	1,548
精　神	1,016	1,531	525	1,147	0	88	59	255	0	4,366	5.1%	364
情　緒	31	416	27	5	0	15	0	0	0	494	0.6%	41
介助者	11,393	5,326	3,001	1,806	131	1,189	430	1	10	23,286	27.0%	1,941
ボランティア	746	194	59	260	4	116	2	0	19	1,400	1.6%	117
その他	394	498	266	0	2	2,333	155	0	65	3,713	4.3%	309
一　般	7,011	2,282	398	504	138	0	0	17	0	10,333	12.0%	861
計	38,345	17,767	8,744	8,752	704	5,966	1,160	5,498	137	86,091	100.0%	7,174

夏まつりと自主事業は区分なしであるため合計に計上している

出 前 事 業 等	2,890	3.4%
夏まつり延べ人数	1,626	1.9%

（注）　合計には、医務室の利用人数を含まない。

月別・障害別利用状況

（単位：人）

障害＼月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
視　　覚	70	44	122	62	70	44	42	34	38	32	30	48	636
聴覚言語	79	91	105	138	106	349	76	57	77	65	94	104	1,341
肢　　体	1,190	1,172	1,549	1,255	1,514	1,407	1,171	1,056	945	1,042	1,086	1,441	14,828
内　　部	244	212	274	229	262	245	234	185	172	161	159	231	2,608
知　　的	1,309	1,608	1,793	1,921	2,144	1,572	1,477	1,059	1,002	1,508	1,412	1,765	18,570
精　　神	369	309	406	373	428	589	436	347	220	225	269	395	4,366
情　　緒	42	25	70	20	35	91	42	47	40	25	26	31	494
介 助 者	1,679	1,806	2,413	2,558	2,757	2,217	1,869	1,506	1,265	1,567	1,606	2,043	23,286
ボランティア	81	95	92	170	84	86	122	180	63	101	99	227	1,400
そ の 他	214	182	303	499	376	659	213	229	338	119	116	465	3,713
一　　般	1,863	1,308	536	583	1,342	718	586	344	1,159	546	649	699	10,333
計	7,140	6,909	8,181	9,698	9,195	8,156	6,566	5,532	5,622	5,578	5,671	7,843	86,091
出前事業等	0	57	518	264	77	179	298	488	303	187	125	394	2,890

夏まつり延べ人数	1,626

夏まつりと自主事業は区分なしであるため合計に計上している

曜日別・月別利用者状況

（単位：人）

月＼曜日	火	水	木	金	土	日	祝	出前事業等	計
4	729	832	940	900	1,099	2,367	273	0	7,140
5	442	1,289	716	704	1,296	1,797	608	57	6,909
6	649	1,249	1,483	1,405	1,501	1,376	0	518	8,181
7	550	1,046	1,480	1,102	1,971	2,993	292	264	9,698
8	911	1,539	1,788	906	1,623	2,037	314	77	9,195
9	235	922	1,294	1,528	1,785	1,339	874	179	8,156
10	452	868	1,021	1,058	1,479	1,150	240	298	6,566
11	364	1,170	975	426	869	969	271	488	5,532
12	384	823	682	841	844	1,552	193	303	5,622
1	678	806	656	1,089	918	1,091	153	187	5,578
2	329	711	1,138	890	1,179	1,109	190	125	5,671
3	602	1,271	662	1,388	1,624	1,589	313	394	7,843
計	6,325	12,526	12,835	12,237	16,188	19,369	3,721	2,890	86,091
開所日数	29	45	47	47	49	51	15		283
一日平均	218.1	278.4	273.1	260.4	330.4	379.8	248.1		304.2

Ⅳ　利用者と支える人の声

私にとってセンターは大切な場所

吉田　真太郎

私が滋賀県立障害者福祉センターを知ったのは小学生の時でした。

確かお医者さんの紹介で、初めて利用したのは、親子水泳教室でした。泳げなかった私を丁寧に教えてくださったセンターの職員さん、先生のことをよく覚えています。

それから、卓球教室を受講したり、色々な人と出会い、障害者スポーツを知り、紹介をしてもらったのが車いすツインバスケットボールという競技でした。車いすツインバスケットボールは10年間続け、体力維持なども考え、毎週この障害者福祉センターで汗を流していました。10年間頑張っていた車いすツインバスケットボールも私は進行性の障害がある為、体力的に厳しくなりましたが、少しでも体を動かすことは自分にとっては大事なことなので、練習には今も通っています。今出来る事をと思い、仲間と共に今年から卓球チームを作り、ボッチャも始め、また色々なスポーツとの出会いもあり、楽しい毎日を過ごしています。

私のように障害があっても運動が出来るこの障害者福祉センターがあることに感謝しています。

利用し始めてあっという間に約26年が経過しました。

両親が協力してくれて、幼少期の頃に私を毎週のように障害者福祉センターに連れて来てくれたことで、今があるのかなと思います。

もちろんセンターの職員さんにも感謝しています。

私にとって障害者福祉センターはなくてはならない大切な場所です。

センターを利用して思うこと

江川　拓馬

私は2016年の夏ごろからライトニング滋賀のボッチャの練習場所として定期的に利用させていただいています。始めのうちは毎回ラインテープを引いてコートを作っていましたが、毎回大変だろうとご配慮いただき、マジックでコートを作っていただきました。そのおかげでコートを作る時間を練習に当てることができ、練習時間が十分に取れるので、非常に助かっています。冬に暖房が使えない時はファンヒーターを使わせていただいたこともありました。

また、ボッチャの普及にもご協力いただき、障害者週間の啓発イベントでボッチャの紹介と体験会をさせていただきました。このようないい環境を提供していただいているおかげで、日本代表になるまでレベルアップすることができました。職員の方も応援してくださっていて、とても嬉しいです。結果を残して恩返しできればと思います。

これからもよろしくお願いします。

春四月“新たな挑戦”を

輪悠会　阿部　美登里

「努力は一幸福を手に入れる手段ではなく、努力そのものが幸福を与えてくれるのである」トルストイ。言葉の日めくりの中にこの一説があった。輪悠会は今年で 26 年目を迎えるということで、まさにこの言葉の様に努力そのものであったと思う。

股関節が悪く変形性膝関節症や骨頭壊死症など歩行が困難な時期があり、痛みに耐え苦く、外出も出来ない数年を過ごした人も少なくない。今は障害者福祉センターで毎週金曜日に渡辺先生の御指導の元、水中歩行や水泳を 1 時間させていただいている。今や情報交換をしながら元気に 21 人の大きなグループに成長しています。

朝 10 時からですがプールに入る前のつかの間の時間が実に楽しい！代々のリーダーがリーダーシップを発揮され、今に至るのですが、今のリーダーも先ず、おはようの前に「何々ちゃん！おはよう」と声をかける。素敵な事だと思う。声で体調が確認できると、その日の行動の指針もはっきりする。体調万全！今日はオーバーワークでも大丈夫！これはちょっと気を付けてあげよう！と声を体調管理の有効なバロメーターにしてくれていると思う。

和気あい愛、月に一度はプールの後、吹矢もしている。吹矢のリーダーの元、毎回 5 ゲーム程している。腹式呼吸を学び精神集中。単純明快なおもしろさ、挑戦する醍醐味、爽快感を兼ね備えていて楽しんでいます。

各行事、交流、大会事業、センター事業を支援し、社会参加を進めて参ります。

先生方の御指導をいただき新たな挑戦をして参ります。よろしく御指導ください。

やる気をもらって！

岡部　やよい

障害者福祉センターのボランティアを始めて 3 年になります。体力的に自信のない私は、文化教室で何かお手伝いできないか・・・。軽い気持ちで登録させていただきました。書道や生け花は、以前習ったことがありましたので、何とかなるのではと考えたのです。

ところが、いざ活動が始まると、職員の方のきびきびとした動きをみて、ボランティアの皆様の我先にと仕事を見つけ、てきぱきと片付けていかれる様子に、毎回、私もこの仲間に入っているのだという心地良さを感じ、達成感を味わうようになりました。

職員の方の利用者さんへの的確で、元気いっぱい、温かい対応・接し方を拝見し、付き合いの基本、特に、常に誰に対しても笑顔を心がける事が大切だと思いました。

利用者さんとも、だんだん気軽にお話しできるようになりました。どの教室でも利用者さんは、情熱を持って先生の指導を受けられ、懸命に学びとっておられます。その前向きな姿勢・やる気に、私は毎回触発され、主婦としていただけでなく、社会に何か些細な事でも貢献できるよう励もうと思います。いただいた前向きな姿勢、そして元気を皆様にお返しできるよう、これからも頑張っていきたいと思っております

V　施設の概要

1．設置目的

心身障害者に関する各種の相談に応じるとともに、心身障害者の教養の向上、健康増進、社会との交流促進等のための便宜を総合的に供与し、心身障害者の福祉の増進を図る。

2．建設の経緯

(1)　昭和61年 7月11日　身体障害者福祉センターA型検討委員会設置
(2)　昭和62年 3月　身体障害者福祉センターA型整備の基本構想の結果報告
(3)　平成元年 7月 3日　建築工事着工
(4)　平成 2年 4月 1日　滋賀県立障害者福祉センター開設準備室設置
(5)　平成 2年 6月27日　建築工事完工
(6)　平成 2年 8月 1日　滋賀県立障害者福祉センターに名称変更
(7)　平成 2年 8月 4日　開所式
(8)　平成 2年 8月 7日　一般開放
(9)　平成 8年11月 4日　多目的トイレ新築工事着工
(10) 平成 9年 3月27日　多目的トイレ新築工事完工
(11) 平成 9年 4月 1日　多目的トイレ供用開始
(12) 平成14年 2月20日　正面玄関横車椅子用駐車場へ屋根設置及び多目的トイレへオストミー対応化工事(1ヶ所)

3．建設の内容

(1)　所在地　滋賀県草津市笠山八丁目5番130号
(2)　規　模　敷地面積　12,679 m^2
　　建築面積 4,067.676 m^2　延床面積　3,970.219 m^2
(3)　構　造　鉄筋コンクリート造（一部鉄骨鉄筋コンクリート造）勾配屋根平屋建
(4)　建築工事費　約12億2千万円
(5)　障害者への配慮
　ア　正面玄関等に誘導チャイム
　イ　玄関ホール等に点字案内施設図
　ウ　所内外に点字誘導ブロック
　エ　正面玄関横車椅子用駐車場へ屋根設置
　オ　屋外からの出入口に感知式自動開閉扉
　カ　各室出入口に半自動開閉扉
　キ　廊下に所内案内点字付き手すり
　ク　身体障害者用便器・洗面器
　ケ　ナースコール（プール、アリーナ、便所、更衣室等から事務室へ）
　コ　会議室に集団補聴設備（テレホンコイル付き補聴器受信可能）
　サ　多目的トイレに自動扉・ウォシュレット4台設置・収納式多目的シート
　　オストミー対応・（人工肛門・膀胱造設者）1ヶ所

シ　冷暖房設備、床暖房設備（プールサイド、男女更衣室）
ス　車椅子で飲める水飲み器
セ　文字放送地上デジタルテレビ
ソ　公衆ファックスの設置（H8年）
タ　全館にスプリンクラーによる消火設備
チ　玄関および観覧ホールにＡＥＤ設置
ツ　アーチェリー場に雨よけ屋根設置

(6)　施設の内容

施　設　名	面積(m²)	内　容
アリーナ	809.47	バスケットボール、バレーボール、テニス、バトミントン等のライン区画、 各種スポーツ用具、バスケットボール用電光表示板、放送設備等設置、冷暖房設備完備
		付帯施設：男女更衣室、車椅子置場、器具庫
小アリーナ	135.71	卓球（サウンドテーブルテニス・一般）、遊具設置
トレーニング室	95.36	トレッドミルやエアロバイク等10種類の運動トレーニング器具を設置
温水プール	750.76	FRP 製 25ｍ × 13ｍ(6 コース)、水深 1.35ｍ ～ 1.55ｍ 日本水泳連盟公認、水温 30℃、室温 32℃に設定 車椅子用入水スロープ、床暖房、プールフロアー(２コース)、水中スピーカー、水質自動監視装置設置
		付帯施設：採暖室、男女更衣室、個室更衣室、身障者用便所、観覧ホール、器具庫
会　議　室	158.59	100 人収容、スライディングドアにより３室に間仕切り可能、集団補聴設備、ビデオプロジェクター設置
和　　室	40.90	10 畳×２室、文化・教養活動用として利用
医　務　室	13.86	応急処置、スポーツ医療相談、利用者の健康相談に利用
ボランティア室	51.32	ボランティア養成・交流・障害者団体交流用として利用
ラウンジ	67.85	障害者福祉やスポーツに関する専門図書や資料を備え、障害者の情報提供の場、談話室として利用
そ　の　他		多目的ホール、事務室
屋外アーチェリー場		９的(30ｍ、50ｍ)
駐　車　場		72 台(うち車椅子用 15 台)

(7) 平成29年度の主な改修工事
ア 空調設備、プールろ過装置改修
イ プール非常口網戸取付工事
ウ アリーナ・小アリーナカーテン取替工事
エ 防火シャッター安全装置設置工事

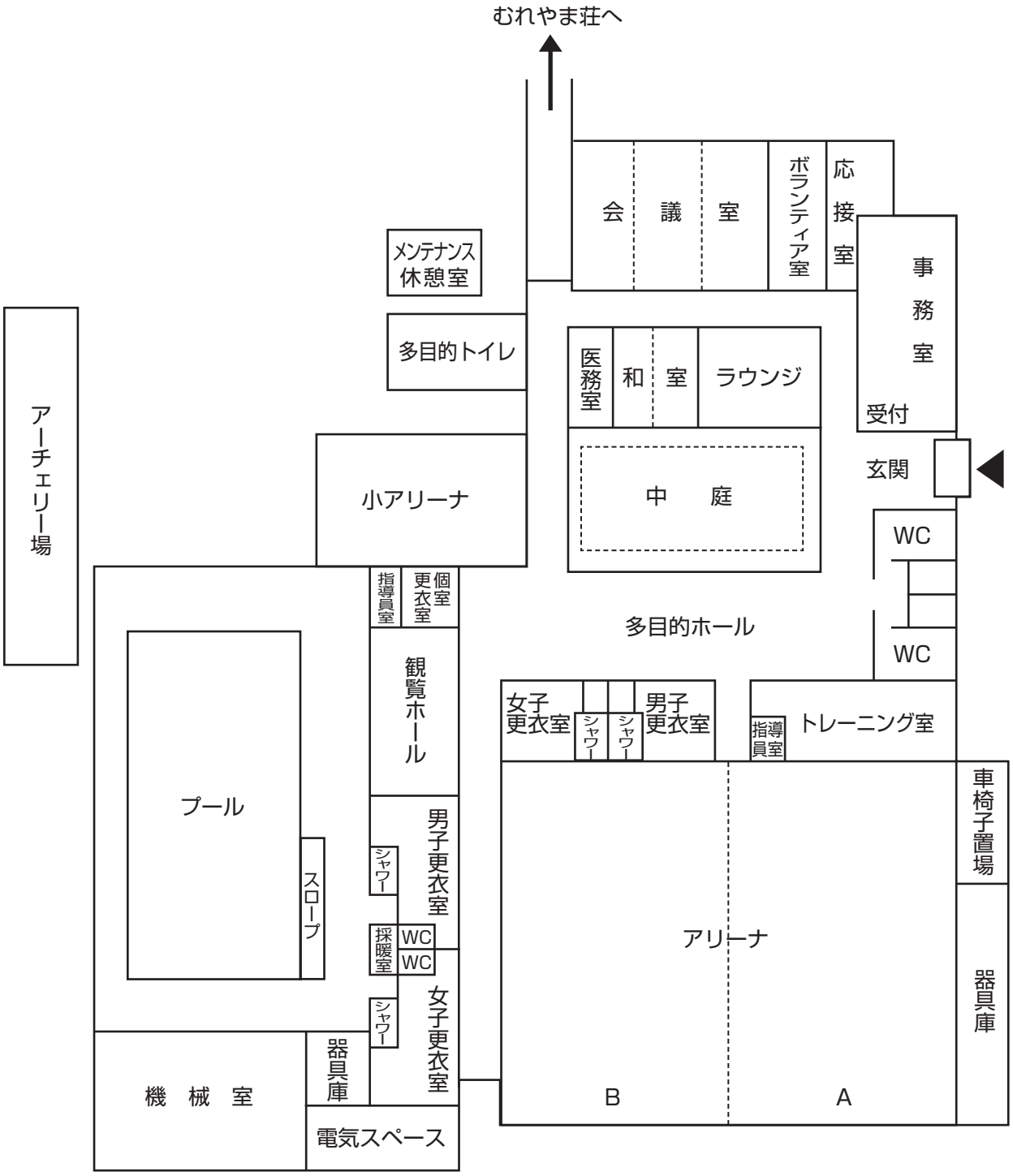
4．管理・運営

(1) 設置主体　滋賀県
(2) 運営主体　指定管理者　公益財団法人滋賀県身体障害者福祉協会
(3) 休 所 日
・月曜日（休日である場合を除く。）
・休日の翌日（土曜日、日曜日または休日である場合を除く。）
・12月29日～翌年1月3日
・上記のほか管理者が定めた日
(4) 開所時間　午前9時30分～午後8時30分
(5) 利用時間

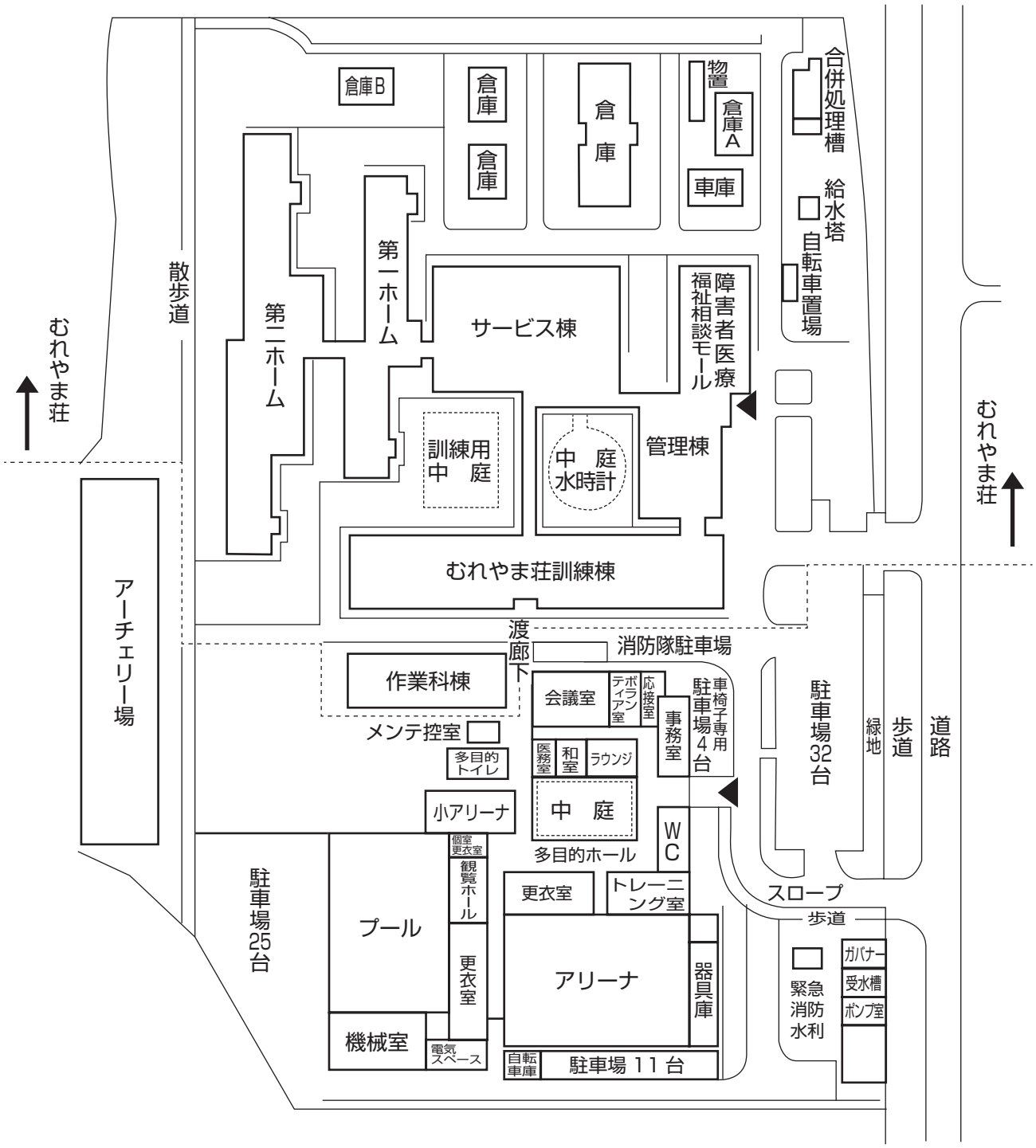
区分		全施設 （アーチェリー場では夜間の部は利用できません）
個人利用時間	午前の部	9時30分 ～ 12時00分
	午後の部	13時00分 ～ 16時30分
	夜間の部	17時30分 ～ 20時30分
団体		9時30分 ～ 20時30分

(6) 利用対象者
ア 身体障害者手帳所持者
イ 療育手帳所持者
ウ 精神障害者保健福祉手帳または精神障害の状態に関する証明書所持者
エ 特定医療費（指定難病）受給者証所持者
オ 小児慢性特定疾病医療受給者証所持者
カ 前記ア～オに掲げる者とその障害が同程度と認められる者
キ 前記ア～カに同行してきた介助者
ク 登録ボランティア（障害者等の利用を妨げない程度）
ケ 前記ア～カに掲げる障害者以外の者（障害者等の利用を妨げない限度において利用可）

平　面　図


むれやま荘へ
会
議
室
ボランティア室
応接室
事務室
受付
メンテナンス休憩室
多目的トイレ
医務室
和
室
ラウンジ
中　庭
アーチェリー場
小アリーナ
玄関
WC
WC
多目的ホール
指導員室
個室更衣室
観覧ホール
プール
スロープ
男子更衣室
シャワー
採暖室
WC
WC
シャワー
女子更衣室
女子更衣室
シャワー
シャワー
男子更衣室
指導員室
トレーニング室
車椅子置場
アリーナ
器具庫
機　械　室
器具庫
電気スペース
B
A

配　置　図


倉庫B
倉庫
倉庫
倉庫
物置
倉庫A
車庫
合併処理槽
給水塔
自転車置場
第一ホーム
第二ホーム
サービス棟
障害者医療福祉相談モール
管理棟
訓練用中庭
中庭
水時計
むれやま荘訓練棟
散歩道
むれやま荘
むれやま荘
アーチェリー場
渡廊下
消防隊駐車場
作業科棟
メンテ控室
多目的トイレ
会議室
ボランティア室
応接室
事務室
車椅子専用駐車場4台
医務室
和室
ラウンジ
中庭
多目的ホール
WC
小アリーナ
個室更衣室
観覧ホール
更衣室
プール
更衣室
トレーニング室
アリーナ
器具庫
機械室
電気スペース
自転車庫
駐車場11台
駐車場25台
駐車場32台
緑地
歩道
道路
スロープ
歩道
緊急消防水利
ガバナー
受水槽
ポンプ室

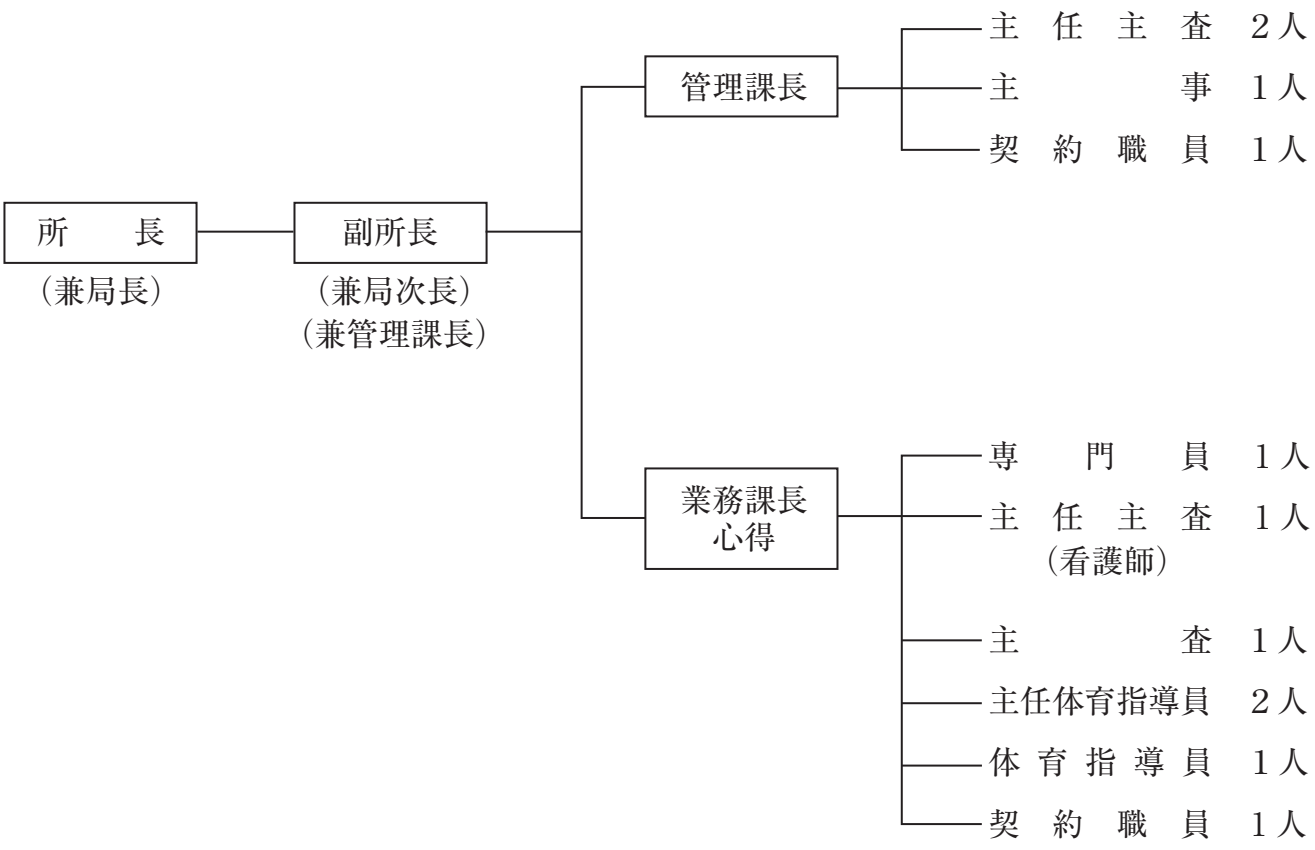
Ⅵ　組　　織

1．組織図

当センターは、公益財団法人滋賀県身体障害者福祉協会が滋賀県から指定管理者としての指定を受けて、管理代行をしている施設です。

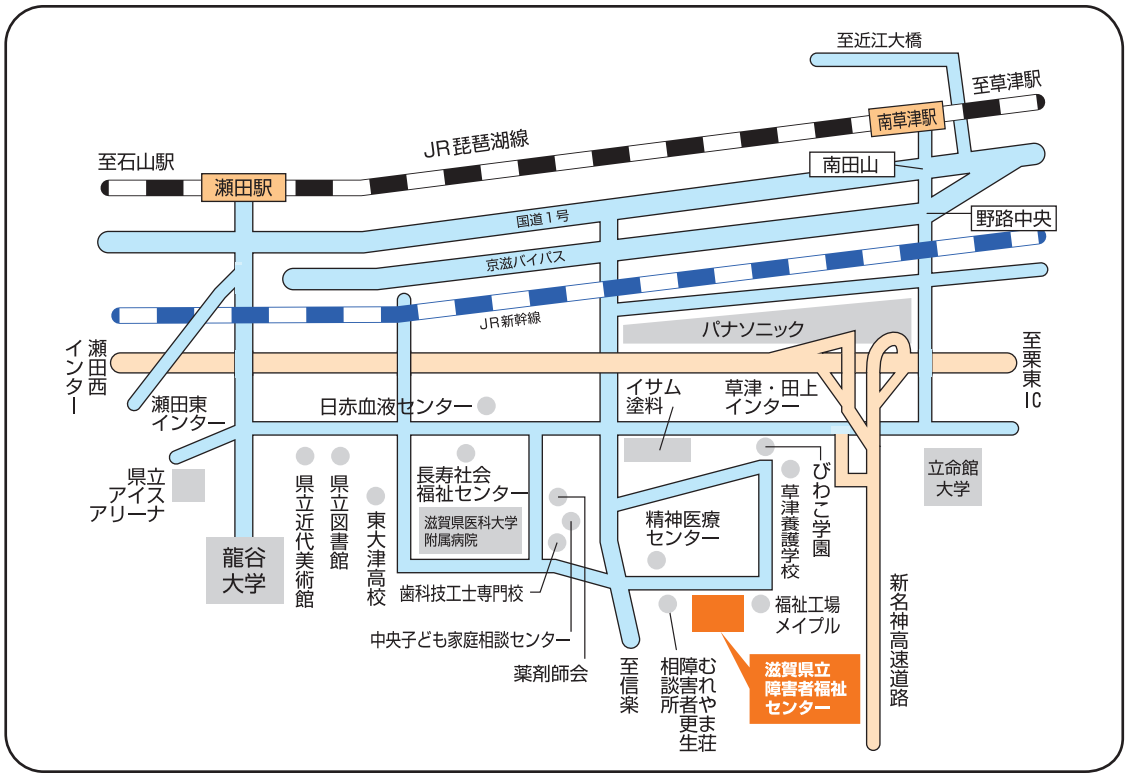
職員体制は表のとおりとなっています。

（平成 30年 4月 1日現在）



滋賀県立障害者福祉センター

〒525-0072　草津市笠山八丁目5番130号
TEL 077(564)7327 FAX 077(564)7641
http://www.shiga-fukushi-center.com/
E-mail webmaster@shiga-fukushi-center.com



●電車での来所

JR南草津駅(バスのりば⑥番)から　総合福祉センター前下車
※JR南草津駅と障害者福祉センター間、路線バス(ノンステップ)が運行されています。(帝産湖南交通)

●高速道路利用の場合

名神・新名神高速道路　草津・田上インターから約3分